■注目記事

高・中で卒業式 第4回「伊勢」と日本 スタディプログラムを実施

4 面 就職者VOICE

平成28年度

CLL活動報告会を開催

教学振興会寄付者芳名

教育学科有志·第31回卒業記念

学位記・修了証書授与式

神道学専攻科

代 文学部国文学科

恩賜奨学賞 文学部国文学科

大宮司賞 教育学部教育学科

理事長賞 文学部神道学科

長

理

長谷奨学賞

辞

送

文学部神道学科

文学部国史学科

教育学部教育学科

文学部国史学科

賞 文学部コミュニケーション学科

神道学専攻科

文学部神道学科

文学部神道学科

文学部国史学科

辞 文学部神道学科2年

保育士養成課程の卒業生に対する会長表彰 教育学部教育学科

文学部コミュニケーション学科

現代日本社会学部現代日本社会学科

現代日本社会学部現代日本社会学科

現代日本社会学部現代日本社会学科

現代日本社会学部現代日本社会学科 精神保健福祉士養成校の養成課程修了者に対する協会表彰 現代日本社会学部現代日本社会学科

社会福祉士養成校の養成課程修了者に対する協会表彰

博士(文学) 文学研究科博士後期課程 国文学専攻

文学研究科博士前期課程 神道学専攻

教育学研究科修士課程 教育学専攻

■Kらいふ(全学一体 第163号)

6 面(高校・中学校) 建国記念の日の講演 ほか

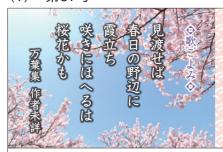
ミュージカルを開催

退任によせて ほか

平成28年度

2 面 卒業生随想 <sup>発行·編集</sup> 学校法人皇學館 企画部

TEL 0596-22-6496 · 8600









大学院 専攻科 文学部 教育学部 〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704 

三重県伊勢市楠部町138 [高校] 〒516-8577 TEL 0596-22-0205代 [中学] 〒516-8588 TEL 0596-23-1398代

高等学校・中 学 校

学位記・修了証書授与式が執り行われた。 穏やかな日となった三月十八日、 この日、

ぞれの志と皇學館で学んだ誇りを胸に、思い出の詰まった母館をあとにした。 、学部六八三名、神道学専攻科二十二名、大学院十二名の計七一七名。それ 旅立ちのときを迎えたの

本学記念講堂において平成二十八年度の

、年度学位記・修了証書

三月十八日、

平成二十

内宮を正式参拝。 朝八時半に集合し外宮・ 卒業を迎えた七一七名は 授与式が記念講堂にて厳 かに挙行された。この日、

大御神

受賞者十名に賞状と記念 奨学賞、 受け取った。続いて恩賜 れた学位記・修了証書を で清水潔学長より手渡さ が登壇。 んだ各学部等の代表者ら 羽織袴やスーツに身を包 大宮司賞などの 晴れやかな表情

様の御神徳のもと、無事 た喜び、感謝の気持ちを 奉告した。 に卒業・修了の栄誉を得 午前十一時半に始まっ

使命遂行に 全身全霊を尽くする

その巡り合わせ、 触れた。 実感したに違いない」と に触れる好機に遭遇し、 本学で学ぶ喜びと意義を 重みに

清々しい表情で学長より学位記を受け取る国史学科総代の岸田玲奈さん

淙

渡

超

奈

徹

平

淙

慈 子

寬 基

劉

宮 本

瀧 下 清水野 佑 季

工

南

吉 野 智 香

鈴

岩

新

松

足 立

辻

中 村

岩城

下

原 口

藤

岸田玲

部

野口

石 井

木

田

井 麻 貴

辻 岡

坂 本

城あ

永 滉

翔 平

美 知

瑚 都

惠

佳 子

博 仁

勇 貴

あ

田 中 美津子

青山奈央

夕起子

涼

に日本の精神伝統の核心

自ら考え行動

す

彼らが入学した平成二十 年遷宮が斎行された年で 五年は第六十二回神宮式 式辞の中で清水学長は

すべての御恩に報いる道 ことが

さんは りの宝物。 間と出会えたことが何よ いる神道学科・松井麻貴 大社への奉職が決まって 統理賞を受賞し、出雲 「同じ道を志す仲 みんなから刺

読み上げた現代日本社会 語った。 していきます」と力強く

本社会学科の総代を務 中で成長できた」と倉田 激を受け、切磋琢磨する しそうに話した。現代日 山で過ごした日々を懐か

大学で見つけた将来の道

に幸せになれるよう努力 が周りの人を支え、とも ったと語った。

再発見し、発信する側を 中で地元の魅力や良さを きいろいろな人と接する 路を固めたきっかけにな CLL(コミュニティ・ラ めざすようになった」と に、それぞれの道で大い ーニング・ラボ)活動が進 本学で学んだことを糧

ません。皇學館大学で学 就職する野口翔平君は されていることを知っ 照) に参加して初めて伊 た。地域を自分の足で歩 勢志摩が国立公園に指定 「『あばばい』(※五面参

だいたように、次は自分

自分が支えていた

建学の精神を胸に日々精

んだことを糧に、そして、

野口翔平君

校歌は精神的な結びつ

が、我が皇學館大学の校 きを担っている。ところ



キ

松井麻貴さん

倉

田

立の時代にあって、戦前 と揶揄された新制大学乱 校歌が制定されることも 草もゆる」であった▼今、 況も生み出している▼近 共に歌えない、という状 であっても母校の校歌を じ地域に住み続ける親子 多い。一方で、それは同 少子化で地域の小中学校 増すことを期待したい。 在となった。歌う機会が 大学校歌も歴史を負う存 く再興五十五年。皇學館 誇りと連続性を確かめる からの大学であるという は統廃合が進み、新たに ために歌われるのが「若

た授与式では国歌斉唱 令旨奉読の後、 艶やかな 実を切り開くのは諸君の るアクティブシチズンを ような若者の双肩にかか 目覚ましい成長には括目 ムに参画した学生諸君の 育成する学修カリキュラ 、「地域課題の厳しい現 べきものがあると語 学科の木下大輔君は

り、 父母に対する報恩であ 君を育んでくださった御 ところそれが今日まで諸 っている」と激励した。 り、 全霊を尽くす。つまる して、「己の使命を自覚 本学に対する貢献で その使命の遂行に全 すべての御恩に報

卒業生を代表して答辞を 仕学生の送辞に続き、 いる道」と説いた。

め、松阪ケーブル テレビ・ 確信している。 に活躍してくれることを

るのか。それは、神宮皇

もゆる」ばかりが歌われ らなかった▼なぜ、「若草

影響していた。駅弁大学

學館大學の存在が大きく

学び舎での歳月を振り返 を養うことができた」と るための深い経験と知識 自分の夢や目標を実現す な学びにより、 なフィールドでの実践的 ることを今後決して忘れ おかげで今の自分があ ンパスの中だけでな 「大学生活での出会い 伊勢志摩という広大 実社会で

ステーション株式会社に

提案もなされてきたが、 そうとチャイムのメロデ 業式ということになって はかばかしい結果には至 か、卒業生の会合でも歌 校歌に触れる機会を増や の高い一流の歌なので、 いる。歌詞も楽曲も格調 ってはどうか、といった ィに取り入れてはどう で習い、次に歌うのは卒 歌は入学後のガイダンス 「若草もゆる」である▼校 専ら学生達や卒業生が好 んで歌うのは精華寮寮歌 歌はあまり歌われない。 が、先生や友人、後輩た

に感じることもあった

ことができた。

へのエントリーなど面倒

ちの支えもあり、

縁の下

充実して過ごすことがで

あり、第一志望で伝統文

通して、伝統文化の大切

に触れたいという思いが

していたが、日本の芸術

私は福祉コースを専攻

本当に、この四年間を

多くの人の支えや助けに感謝を

進学先 皇學館大学大学院教育学研究科教育学専攻

谷大介

ったためだと実感してい ちからの支えや助けがあ

> ちを忘れず、また、逆に私 たちに対する感謝の気持

の精神を親身になって伝 さや言葉のマナー、

日本

授してくださった。

が多くの人の支えや助け

きたのはさまざまな人た

の力持ちとして最後まで

に進学するが、周りの人 る。来年度からは大学院

頑張っていきたいと思う。

ーマにした卒業論文の研

また、福祉と芸術をテ

になれるよう、これから

活動することができた。

かった「身体の仕組み」

学業では、私が学びた

ゼミが転機

一教え子であることを誇りに

現代日本社会学科

上

### 第67号 (2)大切な絆を次へと託して 彼らの胸中に去来するさまざまな思いを語っても 春からそれぞれの志すが 神道学科 下坂本 最初は頼る人もいない環 奉職先 鷲尾愛宕神社 和 博 をもらえ、私の中になか

支援があって前へと進ん 改めて思うことは、私の でいけた四年間だったこ の学生生活を終える前に 学生生活は大勢の人のご 皇學館大学での四年間 ルバイト先の上司など私 友人、学校の先生方やア しかし、学友やアルバイ 分が住んだ街の人々も優 に必要な学びを教えてく ト先の同僚などの多くの

る方々にも大勢恵ま またこの四年間に自

かった伊勢の地に我が身 人生では縁もゆかりも無 に神職を志し、今までの つでやってきた。当然、 私は自分の目標のため

> う。天照大御神のお膝元 はなく、強い自分を作っ え、神職を志すという目 ていくことができたと思 標に向かっていくだけで った新たな価値観が芽生

境で不安な日もあった。

は願っている。

に羽ばたいてほしいと私 學館大学から大きく社会 いで学科に関わらず、皇 たちもこのような絆を繋 私たちの後に続く後輩

### 皇學館」の看板背負い、 社会に貢献

国文学科 吉 野 智 就職先) 百五銀行

けば大学生活に馴染み新 てしまった四年間だっ らいあっという間に過ぎ に思い出される。それく たことがつい昨日のよう た。期待よりも不安の方 が大きかったが、気が付

やったことで多くの絆が しい方々が大勢いらっし

しそうな中、神宮参拝し の入学式は肌寒い曇り空 の日だった。雨が降り出 四年前の四月。私たち

ったときは励ましの言葉 げで、私が挫けそうにな 芽生えた。この絆のおか

> ていくことが必要だと思 はなく、この優しい絆の せていただいたことに対 でこのような御縁を結ば 大切さを後輩たちに伝え して私は感謝の心だけで 考える力は、これから自 追求する。そこで培った だけ、単位を取得するた 時間となっていた。大学 立つことだろう。 分が生きていく中で役に ら実感した。講義を受け ない毎日がとても楽しい とを卒業論文を書きなが で、只々知識を詰め込む の勉強は自主性が大切 しい友人もできて、何気 して、自分なりの答えを めだけの勉強では大学に

た。皇学、初穂曳き、 皇學館大学でしか学べ

来た意味がないというこ て興味を持ったことに対

拝見学など、この大学で 人に支えられて卒業を迎 方、家族、友人、多くの う。先生や大学の職員の 体験できて誇らしく思 ないこともたくさんあっ か経験できないことを

えることができた。皇學 すべての人に感謝の気持 ちでいっぱいだ。皇學館 館大学に来て、出会えた

いきたい。

負い、社会に貢献できる ようこれからも精進して

### 館友とし 演歌の道に励んでいく ての誇りを胸に 国史学科 辻 博

進学先) 國學院大學大学院文学研究科史学専攻博士前期課程

識を得ると共に、神職 の中での実習や見学授業 学芸員・司書の資格を取 等を通した体験は、 得することができた。

故郷の北海道を離れて

みならず幅広い分野の知 きた。また、専門分野の じ、「日本史」ではなく「国 観を身に付けることがで 史」としての公正な歴史 は、忠実な史料読解を通 専門の国史学の学びで

演歌の歌唱に取り組むこ

病院等の慰問、カラオケ 心に残っている。 外活動として福祉施設や での演歌ショー開催、 学業以外では、倉陵祭

学

生活だった。 が、あっという間の大学 早四年。苦労も多かった とができた。その度に多 私のライフワークである

大会出場での入賞等で、

大学卒業という看板を背

な喜びとなり、 い出になった。 とは、私にとっても大き 大切な思

ある。本当に感謝の念に らの温かい支えのお蔭で 方々を始め、多くの方か ができたのは、教職員の せな四年間を過ごすこと このように充実した幸

館友としての誇りを胸

きっかけで、私は大学院

進学を決意した。突然の

強したいと思ったことが

に、皇国の道義を実際に

感謝し続けたい。そして、

いた全ての御恵を忘れず

もっと心理学について勉

伊勢の大御神様並びに八 の再出発となる。今後も、

わし合うことで、切磋琢

磨しながら卒業論文の執

百万の神々様からいただ

四月からは、新天地で 助けられた恩

また、指導教員の助けも

と、背中を押してくれた。

ことなんだから頑張れ

あり、無事合格すること

にも、演歌の道にも励ん 運用せしめるべく、学問

ていたが、自分で決めた 進路変更に家族も戸惑っ

### コミューケーショ を無駄にせず、 頑張りたい

深く

進学先 三重大学大学 字院教育学研究科学校教育領域 ン学科 千 賀 智穂子

勉強に励んでいた。そし

ごした四年間、指導教員、

私は、皇學館大学で渦

間、そして家族など、



択では、授業で学習した て、二年生後期のゼミ選

その恩を無駄にしないよ 多くの人に助けられた。

ことに加え、人の心理を

勉強することが必要だと

りたい。また、私が助け

来に向け、一生懸命頑張

う、これからも自分の将

られたように、私自身も

周りの人を助けられるよ

めざし、教職教養や専門 した当初、英語の教員を 私は皇學館大学に入学

科目の授業、資格などの を選択した。ゼミでは論 考え、臨床心理学研究室

一うな人になりたいと思う。

して喜んでくださったこ

くの方々が私の歌に感動

自分には何ができるのだ 専攻科の修了は完成で び、学生同士で意見を交 を戴いた以上、社家かど 只々素直に、腹を括って、 うかは関係ないだろう。 理的な物事の考え方を学

# 積み上げた経



の専攻している時代以外 に大学院への進学を選ん り多くの経験を積むため としてより深く学び、よ 私は、研究者、学芸員 大学院の講義は、自分

では、今年の四月から の史料もじっくりと読み

> 指導者両方の立場から とができた。 シスタントでは、学芸員、 大切さを改めて考えるこ 教える」ことの難しさや

えていただいた多くの方 には、感謝してもしきれ 執筆中の苦しいときに支 経験となるだろう。また、 後の人生にとって大事な を書き上げたことは、今 究分野を突き詰め、論文 える修士論文。自分の研 そして、集大成ともい

験を糧に、しっかりと前 が入り混じってはいる が、自分の積み上げた経 が決まった。不安と期待 して美術館に勤めること 四月からは、学芸員と

# 修了は完成ではなく、始まり 神道学専攻科 清水野 佑 季

ろうか。

四月。入学式、オリエ

捉えることの重要性を学 生にご指導いただけたこ けでは知り得ない「画廊」 とを誇りに思う。 を行いながら研究し続け んだ。今後も福祉の仕事 援」と「効果的なビジネ き、「より良い利用者支 の世界を知ることがで この皇學館大学で岩崎先 ていこうと考える。私は、 ス」の両視点から福祉を で、福祉コースで学ぶだ

就職先<br />
社会福祉法人よつば会 化の岩崎ゼミに入らせて 先生はそうした出来事を の連続であったが、岩崎 ツを着用して東京の各名 学び、ゼミ旅行ではスー いただいた。ゼミに入っ 験したことのない出来事 ィスカッションの作法を 崎先生から自己紹介やデ ジネスマナーとして、岩 所を訪問した。今まで体 て間もなく、社会人のビ 先生と討論をすること

属していたが、怪我が多

た。私は陸上競技部に所 は充実した日々でもあっ 日だった。しかし、それ

大学生活は学業や部活

ゼミなどで多忙な日

ができた。ゼミでは、実 について多くを学ぶこと

した実験を行っていたた 際にヒトの身体を対象に

一人では到底全てを

いた時間の方が長かっ

ャーとしての仕事をして

く、競技者よりマネージ

の仲間や先輩、後輩、被 行うことはできず、ゼミ

のなかで、とくに私自身

この四年間の学生生活

た。部費の管理や競技会

て私の研究テーマを意味

方の助けがあって、初め 験者の方々、そして先生

転機となったのが、ゼミ の価値観を変える大きな

での活動である。

のあるデータにまとめる

について真剣に語る岩崎 究をする際は、ビジネス

の入学であったが、その ようなものを感じながら 私にとって、とくに意味 ル」のご縁を戴いた専攻 ような引け目を感じてい もないコンプレックスの る暇もなく、「ワンサイク 社家の生まれではない

まる一年に不安が高まっ むにつれて、これから始 昔のような気がする。 ていたのは、今では遠 ンテーションと行事が進 科の同期と必死に駆け抜 それをどこまで自分の中 けた一年であった。講義 自分が存在していること えがあったからである。 応援してくれた家族の支 でお世話になった方々、 はじめ大学関係や実習先 り組めたのは、先生方を との戦いだった。 とが出来るか。自分自身 で消化し、ついていくこ 祭式、実習。全てが初め ての経験の連続であり、 の有難さを痛感した そのように熱中して取

年でもあった。

戴き、神道に関わるご縁 かと思う。有難くも命を はなく、始まりではない 職先なかとみ現代工芸美術館 験を糧に、前へ 解き、研究することがで 実践していこうと思う。 る最善のご奉仕を考え、 覚悟を以て、自分ができ

とに自ら踏み込んでいけ ないこと、興味があるこ 距離が近いため、わから きる。また、先生方との 史に対する知識を増や 方からの教えは、私の歴 広げさせてくれた。 た。これらの経験や先生 理解を深め、視野を

ない。

おけるティーチング・ア 学部生の学芸員課程に を向いて挑んでいきたい

# それぞれの「知」を創造

第五十二回 第三十六回



伊勢の魅力を世界へ発

フログ等で毎日発信する

伊勢市との連携事業〈「伊勢」と日本スタディプログラム」〉が 聘し、伊勢や日本文化についての理解を深めてもらう本学と 日本学を専攻する欧米文化圏の大学院生や若手研究者を招 厳かな雰囲気の中で挙行された高校卒業式 使することもまた、科学

市内の名所旧跡でのフィールドスタディや市民との交流を通 今年も実施された。参加者は十一カ国・十四名にわたり、二月 十九日から三月十一日までの約三週間、 神宮をはじめとする 本プログラムの特徴は

じて、伊勢の魅力に浸った。

点。二つ目はSNSによ に高度な素養を身に付け んでいるため、日本につ 報発信だ。十四名の参加 るインターネットでの情 いての造詣が深く、さら ルボンヌ大学やライデン ることを目的としている スの大学院で日本学を学 大学など世界トップクラ

だ内容や伊勢についての 者は同プログラムで学ん 情報をフェイスブックや ドスタディに参加。エス 各地の歴史地区や建造 体験型授業のほか、伊勢 トニアのタリン大学の博 物・施設を巡るフィール 在中に、本学での講義や 参加者は約三週間の滞 斎王に伊勢講、式年遷宮… 神道文化について学びを深める

ル・フィアドタウさん (ベ

ラルーシ)は「聖書のよう

「私自身、この伊勢の地に来たことで 毎日発見がある」とメイヨー先生

一つに

人であるコミュニケーシ なっている。 ョン学科のクリストファ ことが参加条件の コーディネーターの

た」と新たに得た知見を

学科三年の洪和樹君は異

て参加者と交流した教育

月道競技 成人女子の部 通し矢 準優勝 月道競技 成人女子の部 通し矢 準優勝

かしたい」と語った。

び濱

学連選抜・三重県国体

「製・教育4年

国体選抜

留学生サポーターとし

るゼミに所属しており、

文化理解をテーマに掲げ

水野星

菜 \* 教育3年

翔

陽◆国史1年

柔道体重別選手権大会出場

と韓国の良さを世界に広

田

桂

也

◆コミュ4年

本 愛里奈。教育3年

日本学生柔道体重別選手権大会出場

里

方

紀 ● 現日1年

重別選手権大会出場

在日韓国人として日本

加者の中には別宮を研究 している人もいて、 -・メイヨー准教授は「参

回るので、肌で感じとっ しい」と本プログラムへ 的で好奇心旺盛な人ばか の期待を語る。 くとも日本の伝統や歴史 みや建築物、斎宮歴史博 り。期間中は河崎の町並 た魅力を世界に伝えてほ 物館といった知名度は低 に触れる場所をたくさん

士課程に在籍するミハイ と信仰心の篤さに感動し 信した。助け合いの精神 語り、「昨日は講義で学ん 日本中世の密教美術に **『伊勢講』について発** 

の暮らしに深くとけ込ん でいることを知り、日本 な経典のない神道が人々 関心があり、ピッツバー いることに驚いた。また、 い人が御塩作りを行って ん(米国)は「神職ではな キャロリン・ワグーラさ グ大学の博士課程で学ぶ

を図り、日本と韓国の魅

輝

◆現日3年

界中の人と積極的に交流 来の目標。これからも世 めたいというのが僕の将

第 花

田

健

悟

教育4年 重別選手権大会出場

全日本ジュア柔道体重別選手権大会出場

英◆国文2年

力を伝えたい」と有意義

な機会となった今回の活

第35回全日本学生柔道体重別選手権大会出場

井 落 竜 大◆教育2年

全日本学生柔道体重別団体優勝大会出場

道部(団体)

国民体育大会柔道競技出場

9

人の宗教観がよくわかっ

動を振り返った。

れの『知』を創造してい ってほしい」と自らの力 そして、「目標の達成のた を磨く必要性を説いた。 することを通してそれぞ 分で考え、探究し、判断

た人生をしっかりと歩む 現していってください」 中で、それぞれの夢を実 であってほしい。そうし めに主体的に行動する人

### 三年間の成長を糧に 皇學館高等学校 卒業生総代

とができました くさんの思い出を作るこ 多くのことを経験し、た 私どもは、入学以来、

二十八年度卒業式

をいただきました。思い 広駅からは、私たちの礼 行。昼食で立ち寄った帯 りを深めた北海道修学旅 儀正しい振る舞いに対 る大地で、友とのつなが めた頃、果てしなく広が し、後にお褒めのお手紙 秋の深まりを見せはじ

は現代物理学の巨人の一

人であるオスカー・クラ

未知の問題を解決してい

ん。これからの時代には、

生み出すことはできませ

だけでは、新たな価値を

く力が求められます。そ

び取るだけではなく、自

さくら」を演奏する参加者【3月3日】琴で古謡「さくら

来た私にとって、伊勢の

歴史の浅い国からやって

歴史の深さや千年以上続

く式年遷宮のような伝統

状授与に続き式辞を述べ して、卒業証書授与、賞 生を前に令旨を奉読。

上村桂一学校長は卒業

者としての自然な態度.

そ

との言葉を紹介。「先人が

培った知識を積み上げる

館中学校卒業式がセミナーホールにて挙行さ

四十六名が巣立ちの日を迎えた。

業式が大学記念講堂にて執り行われ、三五三名 が新たな道へ歩を進めた。同月十八日には皇學

三月一日、平成二十八年度皇學館高等学校卒

た。その中で上村学校長

インの「時には偉大な先

人を疑うという自由を行

受けていると思います ここから再び、それぞれ ます。しかし、私どもは、 の道を歩んでいこうと思 と、胸がいっぱいになり た母校と離れると思う います。多くの壁が待ち 様々な思い出の詰まっ

とエールを送った。 村 木 彩 里

出のつまった皇高祭。や 実感できたことは、私に りきったときの達成感を とって得難い経験となり



を真新しいショルダーバ たちは沢山の不安や期待

三年前のこの場所。私

培った絆を持る

て高校

皇學館中学校 卒業生代表 江

朋

華

言葉として、これまで培

ん。すべての取り組みに 中学校生活最後の」を合

った仲間との絆を誇りと

答辞(抜粋

ッグに詰め、真新しい制

覚悟です。 これからも邁進していく えた国際人となるべく、 神にある、「清明正直」な 學館高等学校の建学の精 足で立ち、歩み続けたい の壁を乗り越え、自分の 長を糧に、しっかりとそ ていただいた三年間の成 と思います。そして、 人格と日本人の精神を備 たくさんの人に支え



す。名札をつけてくれた



セミナーホールにて執り行われた中学校卒業式

て最初で最後の連合

した。いよいよ三年 を得ることができま あり、大きな達成感 て取り組めた行事で 校生徒が一致団結し 後姿はもうありませ 陸上の全校応援は全

ような笑顔で、堂々と私 様々な場面で協力し合 ました。あれから三年…。 たちに対応してください 歩になったような気が 絆を深め合う小さな 年生の宿泊研修は、

所在なさげにこの場に座 服を身につけ、緊張して、

っていたのを思い出しま

先輩方がキラキラと輝く

します。二年生にし して、全力で取り組んで

の強い「絆」。三年間で培 と誘ってくれています。 合うこと、上手くいかな 結ばれているはずです。 しかし、今はぶつかり合 たこの三年間。ぶつかり みることにしました。 三年前と違うのは仲間と た倉田山の桜の木々が私 った回数の何倍もの絆で にはよくあることです。 いこと、消極的な私たち たちを新しいステージへ さあ、春の準備を進め 長かったようで短かっ

とを誓います。 実した高校生活とするこ

# 体に学長渡が賞

動等で顕著な成果をおさめた十七名(うち、十三名は柔道部員)、 激励に受賞者はさらなる精進を誓った。受賞者は次の通り。 団体に賞状と奨励金が授与された。「一層の活躍を」との学長の 三月十八日、二十七日 に学長奨励賞授与式が行われ、クラブ活

第54期学友会総務委員長 希 ◆教育45

アジア学会で発表するの

浮

田

紗

で、今回学んだことを活

了後カナダで開催される

た。このプログラムの終 行事はとても印象に残っ

**本郎丸 裕平**◆教育2年

本 山 回全日本学生柔道体重別選手権大会出場 ·本学生柔道体重別選手権大会出場 翔洋◆教育2年 諒 瑠 那 柔道体重別選手権大会出場 真。現日2年 体重別選手権大会出場 ■国文1年



水野さん、上村さん







濱﨑さん、浮田さん、熱田君

でいたところ、実習先の ❸沢山の神社があり悩ん ていた。2神職養成部。

神職さんから貴重なアド

イスをいただき、

をつかみ、毎日の to do

この気持ちを子どもたち

□中学生の時、

親身に相

た。仲間と情報交換した

期の保育に責任の重さと

の講座では苦手科目に注

力し何度も問題を解い

童と関わる楽しさや面白 ●ボランティア活動で児

さを感じたので。❷大原

幼稚園の先生に憧れ、め

❶優しくて大好きだった

ざすようになった。また、

人格の基盤を作る乳幼児

を学ぶ楽しさを実感し、 や国際交流を通して英語

対策が大変だった。傾向 験していたため、個々の 社と同じく山が御神体の ■社家であり、実家の神

とることができた。OB 削してくださり、満点を と思った。②教職支援室。

じ取れる教員になりたい に、生徒の心の変化を感 ●高校時代の恩師のよう

とくに論文は観点別に添

会はぜひ三年次で見学 の先生方による討論練習

を。③複数の自治体を受

職を考えていたが、留学

■入学当初は企業への就

神社に奉職したいと考え

職養成部の皆さんに相談 Rが苦手だったため、神

しながら改善していっ

への接し方、コミュニケ た。母普段から目上の方

竹本美穂(国文)

リストを細かく作成し

た。4自分は何をしたい

【就職先】神奈川県 (高校・国語)

ーション能力を磨いてお

# 贈

神職編、教員編として成功の秘訣を語ってもらった。 厳しい就職戦線を乗り越え、志望する道へ歩を進めた先輩たち。今回は

①志望理由 ②活用した支援制度 ③苦労、工夫した点 △一口アドバイス

神谷拓臣(神道)

秋葉神社 秋葉山本宮

### 萬谷浩也(神道) 【奉職先】西宮神社

●もともと神職を志して

おり、地元に帰り奉職し

たい希望があった。2神

職養成部や就職セミナー

に通い詰めた。❸自己₽

た、御祭神が福の神様の 私にとって笑顔を通して ■関西圏にあること。ま やりたいことを体現でき ため、笑うことが好きな

先生に相談したことで自 気や環境を見つけるこ 行き、自分に合った雰囲 性を絞れた。4さまざま と。また、友だちや先輩、 信がついた。 な神社にご奉仕や参拝に



普段の自分で面接に臨 己分析を徹底的に行い、

ことは何でもした。4自 ると考えたから。2神職 など独力でカバーできる 強や祭式にまつわること 3社家ではないため、勉 養成部に何度も通った。

丁寧に作成すること。 む。書類はきれいな字で



❷神職養成部。一人ひと

をしたいと思ったから。 地域活性化に繋がること ●神様の力をお借りして

とてもよかった。③過去 策をしてくださったので りの能力に応じた試験対

スしてもらった。④面接 山の神社にお参りし、 イントは友人にアドバイ 問が少なく、何をすれば は飾らず自分らしく。沢 った。自分のアピールポ いいのかわからず大変だ



援室で練習を積み重ね ●最初は何となくめざし 練習は仲間に見てもら た。4面接や模擬授業の 苦手だったので、教職支 ことができた。③面接が 面接官、質問を想定する 面接や集団面接の練習を になった。②教職アドバ い、コメントをもらうこ したことで、さまざまな イザーの先生のもと個人 身に付けたいと思うよう 育に関する知識をもっと 方の話を聞くことで、教 た教育への道だが、先生



とで成長できた。

接の練習に参加したおか

2教採対策講座。 集団面

に伝えたいと思った。

考で何ごとも日々精進だ くこと。また、プラス思

切。また、自分のレベル のかという自己分析が大

験はコンスタントに七割 を的確に把握し、筆記試

すんだ。❸教員に向いて

げで本番でも緊張せずに

いるか悩んだが、周りの

励ましや自分の教育観を

見直してモチベーション

とれる力を身に付けよう。

辻岡夕起子(コミュ)

を上げた。4自己分析を

きちんとして自分の将来

【就職先】三重県 (中学・英語)

像を明確に。

稲垣匡人(国史)

眞尾拓臣(教育)

【就職先】兵庫県 (小学校)

谷口綾香(教育)

[就職先]三重県津市

【就職先】三重県中学校

と心得て取り組むこと。

澁谷和俊(神道)

【奉職先】伊奈波神社

年次からチェックしてお かなか取れなかった。三 想以上に忙しく時間がな の試験内容報告書。 けばよかった。4常に笑 いいと思っていたが、予 ❸自主実習は四年次でも 援室の個人面接や先輩方 と感じたため。2教職支 に合った保育をめざせる ❶自主実習を通して自分



米山裕貴(神道) [奉職先]賀茂別雷神社

(上賀茂神社)

る生徒を助けたいと思っ の意見をまとめ発表する 的に進めた。授業で自分 談等を利用し勉強を効率 た。2一年次から個人面 ように、悩み苦しんでい 明確にしておく。 想の教師像や教育理念を ちを高めた。4自分の理 に感じた時は周りの励ま 力が身に付いた。〇子安 の声を思い出して気持

> 夏期集中コース)、幼稚 2大原公務員講座 (教養 やりがいを感じたため。

●保育所で調理師として

夢。2いろいろな園を自

分の目で見て回った。

下地真央(教育) 【就職先】三重県(小学校)





顔であいさつをきちんと 子どもと積極的に関

先輩方や教職支援室

参加した。子どもとの関 を持ち、合格して喜ぶ自 の先生方に相談した。 分を想像する。 た。④「絶対に合格す たものはとても大きかっ わりや生の現場で得られ ボランティアに積極的に ❸アシスタントや学外の る!」という強い気持ち

焦りから私立等も視野に

アカデミーの講座。教職 りたいと思った。❷東京 て、自分も子どもに関わ 楽しそうに働く母を見

支援室での面接練習。

での期間が長く、不安と

面接試験対策。〇内定ま 己PR等対策講座、個人 園・保育士対策講座、

ら「後悔しないようにや 相談したところ、先生か

るだけやってみたら」と

イント。私は実家の米作 にアピールできるかがポ ❸自分だけの長所をいか

りを手伝った経験を保育

にどう生かすか伝え、か

さくら幼稚園・第二さくら幼稚園 【就職先】学校法人宣真学園第 岡本早貴(教育)

くこなせているかより

4試験では課題をそつな 励まされ、心を決めた。

育士としての資質を見ら も、楽しんでいるか等、保

なり手応えがあった。

た。4後半は卒論や口頭 気に幅が狭まってしまっ ないところを探したら一 手なため試験にピアノが てもらった。ピアノが苦

試問等で自分に余裕がな



学外でも積極的に子ども れているように感じた。

と触れ合う機会を持って

た。準備はとにかく早め

にしておこう。

練習回数が少なく焦っ たため、すべてにおいて ◆取り掛かるのが遅かっ

早めに動いて笑顔を忘れ

って言えるくらい頑張っ

てください。

くなってくるので、早め

ください。

受講対象の方は平成30年及び31年3月31日に修了確認期限を迎える

6月1日(木) 16時~3日(土) 12時まで(予定) 第一次

現職教員等の方です。

受付 期間 第二次 6月7日(水) 16時~9日(金) 15時まで(予定) 平成30年·31年 3月31日現在の年齢 生年月日 満35・34歳 昭和57年4月2日~昭和59年4月1日 満45・44歳 昭和47年4月2日~昭和49年4月1日 昭和37年4月2日~昭和39年4月1日 満55.54歳

30時間のうち、必修領域6時間及び選択必修領域6時間は全教員 選択領域18時間は養護教員・栄養教員を除く全教員の方

四日市会場じばさん三重

時間	時間●8:55~16:20							
	伊 勢	四日市	講習内容					
必修領域	8/17(木)	8/21(月)	国の教育施策や世界の教育の動向・教員として の子ども観、教育観等についての省察・子どもの 変化についての理解					
選択必修領域	8/19(±)	8/18金	コース別講習:法令改正及び国の審議会の状況 及び学校における危機管理上の課題、教育相談 (いじめ及び不登校への対応含む)、進路指導及びキャ リア教育、英語教育					
選択領域	8/18金	8/17(木)	道徳教育					
	8/20(日)	8/19生	コース別講習:幼·保、小学校、国語、社会・地理歴史、特別支援教育					
	8/21 (月)	8/22火	伝統と文化の理解					

講習の内容・お申込み方法などの詳細は本学HPをご参照ください。 http://www.kogakkan-u.ac.jp

平成29年度 皇學館大学

習の

問合せ先

4最後まであきらめず、 だいたおかげで、自信を 室の先生方にご指導いた 文等を徹底的に行った。 記試験対策、面接、小論 持って面接できた。③筆 うになった。❷教職支援 職を身近に感じていた。 自分はこれだけやってき ことで教員になりたいと ●両親が教員のため、教 たから大丈夫と自信を持 いう目標を明確に持つよ 教育アシスタントをした

り相談するなど話を聞い

は友だちと情報交換した ため不安が大きい。時に ❸就職活動は一人で行う



児童福祉会多気の杜ゆたか園【就職先】社会福祉法人豊津

牛場凪沙(教育) 【就職先】三重県伊勢市

荒木

玲(教育)

(保育所)

堀部紫乃(教育) (特別支援学校) 【就職先】 岐阜県

は網羅されています。

代文学を専攻した川合先生が選ばれ

学と神社を結ぶ縁として、

んでもらえることでしょう。

たのは三十首、親しみのある万葉歌

が建てられています。それもあって

の長歌に由来する「海行かば」の碑

りました。館友の活躍から生まれた 引いて吉凶をうらなう「歌占」があ

「萬葉神籤」にも、参拝された方がそ

集』を題材におみくじを作ることに

見つめ直すきっかけになればとの思

がこもっています。今後、

れぞれに歌の意味をとらえ、自分を

大伴氏ゆかりのお社で『万葉

なりました。依頼を受け皇學館で上

鎮座する伴林氏神社の宮司・三嶋彰

倍、おみくじにあわせて奉納された 年注目される歌木簡(一尺)のほぼ三

> テスト 2016」にお ぎんビジネスプランコン 銀総研が主催する「みえ

おみくじの長さは九十センチ!。

近

驚くことに、宮司様の強い要望で

三重銀行ならびに三重

萬葉神籤」は、大阪府藤井寺市に

様の依頼からはじまりました。同社

筒も特大です

かつては百人一首を書いた短冊を

大伴氏の祖神をお祀りした式内

平成二十八年五月には大伴家持

ました。『万葉集』の歌にちなんだ、

洋子先生が「萬葉神籤」を監修され

本学で日本語表現をご担当の川合

今までにないおみくじです。

### 南伊勢町ドローン防災プロジェクト」が ディエンス賞

3Dメガネで立体的に見えるなど、進化したハザードマップを めざす同プロジェクト。3月には実際に住民に見ていただき、 意見を募る。左から、近藤先生、田代君、山本さん、米川君

半では九つのプログラム

(別表参照) の代表が登

動では避難所周辺をドロ クト」が受賞した。本活 町ドローン防災プロジェ

ンで空撮することによ

従来よりも詳細で視

り組んでいたりと実態が 面があったり狭い道が入 増している。報告会の前 ム数、参加人数ともに倍 活動が本格稼働してから

感したプロジェクトを表

川光輝君(国文一年)、

佳さん(コミュ四年)、

代恭平君(現日一年)の三

人はドローンを操作して

後半には聴衆が最も共

一年目を迎え、プログラ

の投票が行われ、「南伊勢 彰するオーディエンス賞 学修プログラムとして同

壇。それぞれが取り組ん

だ課題について苦労した

点や学んだことを交え発

覚的にわかりやすいハザ

ドマップの作成及び避

はフットワークが軽いと

よくわかる。行政の方に

喜んでいただけた」と顔

気軽に参加して」と呼び

年度に採択された三重県 た。これは、平成二十七

高等教育機関魅力向上支

スイッチプログラム」の 援補助金の「みえ出会い

継続事業として実施され

計一〇八名が参加し、左

記の内容を体験した。

名、二月二十四日【営業

は三年生四十三名の

画編】には三年生六十五

二月十七日【事務/企

あれば動機として十分。

まってほしいと語り、「ち な学科、学年の学生に集

ょっとした興味や関心が

ンターンシップを開催し の両日、学内IDAYイ

身に付け就職活動に生か してのマナーやスキルを

すことを目的としている。

一月十七日・二十四日

メージを持ち、社会人と

難情報の提示をめざして

をほころばせた。

て平成二十八年度CLL 三月四日、午前九時半 六二二教室におい

学生が参加。 年度は二十一 行われた。本 活動報告会が 計一六九名の プログラム、

三月四日、平成二十八年度の報告会が開催され、 九プログラムの代表が進捗状況や成果を発表した

●伊勢河崎商家リノベーションプロジェクト 町家、蔵、商店を改装して河崎のまちを活性化

②伊勢おもてなしヘルパープロジェクト

伊勢おもてなしヘルパー推進会議の運営サポート

3大紀町漁業活性化プロジェクト メンバー 16名

CLL(コミュニティー・ラーニング・ラボ)活動 フィールドに、学生が地域の課題解決に取り組む 市・玉城町・度会町・大紀町・南伊勢町・明和町)を

伊勢志摩圏域の三市五町(伊勢市・鳥羽市・志摩

メンバー 12名

目的は大紀町の漁業活性化。錦漁港を中心とした2日間のフィールドワークを行い、大紀町の魅力発信を考える 玉城産豚ブランド化プロジェクト メンバー 6名

「玉城豚ブランド」を通して地方産品の高付加価値の取組みを学 び、全国へのPR企画を立案・実施 6 皇學館みらい対話団 メンバー 5名

伊勢志摩地域の課題を題材に、 る。今年度は4回実施 々が対話する場をつく ⑥南伊勢町ドローン防災プロジェクト メンバー 6名

ドローンを用いて撮影した画像や現地調査結果を南伊勢町の地域 防災に活用 ⑦「ごみ分別ガイドブック」作成事業 メンバー 4名

子ども・お年寄り向けのごみ分別ガイドブックを2種作成

②次世代協働プロジェクト「TeamS」 SNSを利用して志摩と田舎あられについて発信。 れ茶漬けを商品化した

⑨[あばばい]

伊勢志摩国立公園指定70周年記念行事のサポー の伊勢志摩の発展の担い手を育成

私たちは伊勢シーパラ

集

ています。

じた地域活性化をめざし

高

智

大(国史三年)

上がりました。大学につ

いては学部・学年におけ

にイルカが良いとの声が る意見が多数出て、とく など〝触れ合い〟に関す については動物との近さ

アルプロジェクト

客」という課題について ダイスさんと一緒に

観光施設を通

り、私たちは昨年十二月

活動を始めるにあた

パラダイスの岩山様を交

は第二回として伊勢シー

摘のほか、環境・設備が

充実していると評価する

る繋がりが弱いという指

また、二月二十八日に

えワークショップを開

声も多かったです。最後

ーパラダイスの見学」「香

とについてアイデアを出 ふまえてやってみたいこ

究×展示」など多彩なア

源である二見興玉神社研

「ビアガーデン」「地域資

に今後の取組みについて

イデアを提案できまし

た。今後は実行に移して

し合い、意見交換を行い

シーパラダイスの特徴

た「二見の散歩」「伊勢シ 域資源の理解を目的とし 十日に第一回として、地

学の特徴、さらに特徴を

き、シーパラダイスや本

川大学×皇學館大学によ

る意見交換」を行いまし

C L し 活動

活発な意見交換がなされた聴衆から質問が相次ぎ、

らの率直な意見から、 員の近藤玲介先生も

後のマップ作りに反映で ことに気付かされた。今 門家らが作るハザードマ わかりにくい場合がある ップは一般の方にとって 専

きれば」と話した。 教育開発センターの池

度はこれまで以上に多様

ることに言及。二十九年 きな成長の場となってい

を限なく歩いたそうで、

現地調査をすると急斜

撮影したほか対象エリア

り、交渉力や対人能力な て地域で人脈を築いた L活動が学生にとって大 然と身に付いた」とCL ど社会人に必要な力が自 山敦助教は「活動を通

# みえきんビジネスフランコンテスト2016 由茉さんが優秀プラン賞受賞

三嶋宮司・川合先生と 完成した長いおみくじ

河原

いて、 河原由茉さん(現

た友だちやアドバイスでプランを考えてくれ 「受賞できたのは共同

~」が優秀プランを受賞 日二年)の「TRAVEL 摩のオプショナルツアー による外国人向け伊勢志 KOGAKKAN ~大学生 大学は世界に一 かできない体験を つ。その一つであ る皇學館大学でし 「神道を学べる てほしいと、プランには をはじめ、舞や雅楽、 装束を身に付けての撮影

自身が旅行した際、現地 だんに取り入れた。また、 の参拝や祈祷といった体 関する講義、伊勢神宮で 力になるはず、 学生と交流できるのは魅 の人と触れ合う機会がほ 感してもらう企画をふん 道の見学・体験、神道に しいと感じることから、

盛り込んだ」と語る河原 さん。神道の精神に触れ

将来は公務員をめざし

左から、小山さん、河原さん、

茶 ネス化するには多くの課 ぶために使いたいと笑顔 で、賞金の十万円は一緒 自信につながったよう 題が残るも今回の受賞が 原さん。同プランをビジ 仕事に興味がある」と河 ており、「観光にまつわる で話した。 に頑張った中川莉緒さん (同)と相談して地域を学 (現日二年)、小山葵さん



て仕事への理解や働くイ ●テレアポ/名刺交換体験 ②見積書作成④企画会議 ⑤企画プレゼンテーション ❸トラブル対応

①テレアポ/名刺交換体験 ②B to C営業体験(商品シート作成・提案) ③B to B営業体験(提案シート作成・提案)

2月24日

通してそれを知ることが

活動に生かしていきたい。

できたので、今後の就職

●事務職へのイメージが た。貴重な体験ができた。 大きく変化した一日だっ 営業編

受けた。 ●無口で口下手な私でも (関わる人も増えて)活動 かなりアクティブに できて、楽しく、 刺激を

はない!と思った。職種 営業に向いていないこと

の視野が広がった。

### 学生の感想

●事務といってもさまざ (事務/企画編)

事とギャップがあった。 経験できてよかった。 とがわかった。今回の内 容は社会に出て必要なこ まな仕事、役割があるこ このインターンシップを ●想像していた事務の仕 とばかりで、今の段階で

家庭部

梅

つけ

麺」が三位

梅の花がほころび始めた二

がやっと。また、大会前日の

UME-1 クルノ ませ みなべぎ - JA RM・みなべ用3

ME-1グルメ甲子園

in梅の里みなべ

### 皇高NEWS

総合点で評価される。本大会 E-1グルメ甲子園:n梅の里 平安神宮での厳粛な正式参拝 された。当日は好天に恵まれ、 出場に向け実施した校内試食 客態度、審査員による試食の 価、大会当日の売り上げ、接 の料理コンテストは材料や原 見事第三位に入賞した。 瀬)が初出場。「梅つけ麺」が 田邊愛・野呂蒼衣・山本奈々 勢っ子娘」四名(二年川口夢・ みなべ」に本校家庭部の「伊 みなべ町で開催された「UM **只都フィールドワークが実施** 会では二時間で四十杯作るの 古都の 梅を使ったレシピで競うこ て、「総合的な学習の時間」 二月十六日から十七日にか 一環として全一年生による 町並 み、

を誇る南高梅の里・和歌山県 月十二日、日本一のブランド らと補助員(二年井村舞瑠・倉 り上げようと、「伊勢っ子娘」 される中、目標の二百杯を売 折みぞれ混じりの強風にさら Rを行わねばならず、 調理以 谷真衣)は必死で仕事に励み、 外の努力も求められた。 交流会では学校紹介や料理P 初出場ながら第三位に輝いた。 こもった味が高評価を得て、 せぬ見事な連携作業と真心の 二百杯を完売。お客様を待た 不安山積で迎えた当日、時

保護者、そして、大学精華寮 大会参加にあたり教職員や

人々の魅力に触れて

の皆さんのご協力がなければ て頑張りますので、応援よろ ともに、来年は優勝をめざし た。心より御礼申し上げると この結果は得られませんでし しくお願い致します。 家庭部顧問 櫻井さや



全国34チームのうち、選抜10チームに選ばれた「伊勢っ子娘」(最左)

都京都の町並みを歩き、その 手に日本文化が凝縮された古 伝統的建造物や歴史的価値だ 京都フィールドワー

金閣寺で仲良く記念撮影

高校生活に生かしていってく 合うことの大切さなどを学 心や優しさに直接触れること けでなく京都の人たちの親切 う。今回学んだことを今後の び、非常に成長したように思 た、規律を守ることや協力し いを感じることができた。ま で見聞を広め、人との触れ合 学べた。 文字が浮き上がってくるおみ 見たり触ったりして楽しんで くじを引き、漢字博物館では

の後、八つのコースに分かれ、

ざした。生徒たちは地図を片

社仏閣や資料館、博物館をめ 事前学習で調べた目的地の神

れることを期待したい。以下 かった。土産物屋の人たちも ていなかったため遠回りが多 ・道のりがしっかり確認でき に生徒の感想を紹介する。 ていてくれて、話しかけても ・下鴨神社では水に濡れると 度か諦めそうになったが、四 雰囲気が漂っていた。伏見稲 機関を使わなかったので交通 ることができたし、公共交通 ・班員で協力してコースを回 晴らしくて疲れがふっ飛んだ。 ツ辻に着いて景色を見たら素 荷では上りの坂道が大変で何 ・平安神宮は壮大で、厳かな

の神社で、参拝できて本当に

よかった。目標を達成できる

・白峯神宮はスポーツの神様

真剣な表情で正式参拝(平安神宮)

徴的で京都らしさを感じるこ たので急がずにまわることが とができた。庭が美しく見て ・京都は小学校の修学旅行以 ・時間に余裕を持って行動し いて飽きることがなかった。 清凉寺は大きな仁王門が特 費はいらなかった。

長野県・スキー研修

だった。 観光客も多く、日本文化の魅 行ってみると街の雰囲気の感 ・京都の人たちが道を親切丁 力が伝わればいいなと思った。 じ方が違うと思った。外国人 来だったが、高校生になって 寧に教えてくれたのが印象的

皇中NEWS

スキーを通し学んだことを次に生かす

白樺湖で実施された2泊3日のスキー研修。2年生たちはたくさん の楽しい思い出を得て、充実した3日間を過ごすことができた。以下、

また家族でスキーに行きたい

を見学するだけだと思ってい じられる研修でよかった。 ・京都の町を巡って文化財等 よう頑張っていきたい。 たのに、人とのつながりも感

# 日本人として強く生きて

講演」を実施した。一般社団法 話をしていただいた。 そ学んでほしい~」の演題でお 間哲郎先生を講師にお迎えし 記念講堂にて「建国記念の日の ヘアジア支援機構代表理事の池 懸命に生きる人々~日本人こ 二月十日午後、中・高合同で、

る。前半はスクリーンの写真や 動画を通して貧困の中で懸命に たりするなど現地の人々のため 学校を建設したり、井戸を作っ 生きる子どもたちや現地の人々 にボランティア活動を行ってい の本業の他に世界の貧困地域に 池間先生はカメラマンとして

> として自覚を持ち、自分の生き 誇りを持って強く生きることが の現実の姿を見せていただい すことを実感できた講演会とな 方や考え方をもう一度見つめ直 場全体が引き込まれた。日本人 大切だと熱く語る先生の話に会 た。後半は日本人として自信と

# 講演後の生徒たちの感想

五歳まで生きることができない を受けた。約三人に一人しか十 るのが夢」と答えたことに衝撃 く少女が「大人になるまで生き ・フィリピンのゴミ捨て場で働

好きな人がいることを知った。 ・アジアの国の中にも日本人を そんな日本を誇りに思う。 という現実があ

の国を愛せるわけがない」とい

国を愛するどころか日本につい う言葉を聞いた時、私は自分の

野訓副学長よりご挨拶があった。

熱く語りかける池間先生

二年A組 尾 﨑 開

すい滑れるようになった。リ でたくさん雪にふれて、スキ ても美しかった。今回の研修 怖くなく、長野県の山々がと フトにも初めて乗ったが全然 指導をきちんと聞いたらすい ンストラクターさんの親切な ないと思っていたけれど、イ 初めてのスキー。簡単では の楽しさがよくわかった。

### 二年A組 前田 さくら

ば焦りすぎていたと思う。自 失くしものを探していたりし 力すればよかった。 分の準備で精一杯だったり、 ことで指導を受けた。今思え て、一人ひとりがもう少し協 最後の日に部屋の片付けの

作文の一部を紹介する。

ないように慎重に滑っていた スキー実習では初めはこけ

日間だった

スキーに限ったことではない そうしないといつまでも上達 挑戦したら上手くなり、また、 が、こける でも生かしていきたい。 と思うので、これからの生活 しないことを学んだ。これは 勢いで思いっきり

### 二年B組 田中 沙都妃

実習だったが、できないこと の人の助けがあればできるこ 集団行動の もたくさんあった。だからこ とが多くあると教えられた三 た。また、 つも以上の ったことだ。その達成感はい った。とくに嬉しかったのは そ多くを学び、よい経験とな パラレル 一人ではできないことも周り 経験者グループでのスキー 」ができるようにな 大切さも学んだ。 スキーだけでなく 喜びを与えてくれ

### |年|| 組 内 も も

は恥ずかしいことでなく、成 た。実習を通してこけること り嫌な顔をせず、メンバー愛 長への第一歩だと感じること を感じられた三日間となっ っくりな人に対しても誰ひと と声をかけたり、滑るのがゆ 誰かがこけたら「大丈夫?」

るのではないかと感じた。 ・世界には貧困ゆえに命を落と いて、自分にもできることがあ は自信に繋がるという言葉を聞 してしまう人がとても多くいる 今の時代、何が真実で何が虚 持ちになった。 知らなければいけないという気 と思った。日本のことをもっと て知っていることが少なすぎる

建国記念の日の講演

成長できると信じている。 また、大学においても翌十一

らないけれど、本当のことを知 偽なのか一目見ただけではわか

ることで今より、そして昔より、

ら、これからの日本や将来の日

く異なっているというデータか

に対する感覚が他の国とは大き •現代の日本人の「生きること」 知らなさすぎたと思った。 という事実を自分があまりにも

本人の姿に少し不安を感じた。

目を浴びていた。正宮参拝後は 荒祭宮を遥拝し、終了後には河 くが参加。端正な服装と整然と 名と教職員約百名の計五百名近 拝を実施した。厳しい冷え込み 日に建国記念の日恒例の神宮参 にもかかわらず学生約三百八十 した参拝に、他の参拝客から注

実の姿を学ぶことができた。世

• 今まで知らなかった世界の現

界各地で活動する池間先生の努

力は大変なものだと思った。

|「自分の

国を愛せない人が他

埼玉県 群馬県 熊本県 取り組み、着実に成果を上げるこ 成など学生・生徒への修学支援に 謹んで厚く御礼申し上げます。動に対し、格別のご高配を賜り、 神奈川県 とが出来ました。又、「伊勢志摩定 のご入会、ご支援をいただき、改 興会につきましても、多くの方々 めまして皆様方のご芳志に対しま 山坪飯県 安県 邦リース株式会社様 前年度に引き続き、 て、 平素より本学園の教育・研究活 平成二十八年度ご入会者芳名 地芦 株式会社サラト様 伊勢山皇大神宮様 本年度の教学振興会支援事業 教 有限会社英真様 平成二十八年度の教学振 保 原原 田原島 倍 から厚く御礼申し上げま 長濱八幡宮様 戸隠神社様 阿蘇神社様 坐摩神社様 挨 史 正 伸 侑 良 雄高 振 典 齟 山県 出神神垣落岡都 星星広永高後小奥今田田 五十嵐 今 伊 宮 保 村田櫻 酒 大 RAS 学校法人皇學館 井 部 本中井  $\mathbb{H}$ 村武山田合地 实 を通した地域活性・社会貢献活動 かいご支援を賜りますよう心より と感謝申し上げ、更なる本学園へ に皆さま方のお力添えによる賜 も活発に展開されました。ひとえ 住自立圏共生学」 恵量靖基節史惠隆邦友 美正重 宣 勝 さつき様 願い申し上げます。 寄付金納入状況をご報告させて ただきました皆様方のご芳名及 ここに平成二十八年度にご入会 所存でございます。 期待に添えるよう鋭意努力い ただきます。 值 太郎 樹様 里平也博正佳様様様様 子弘治宏様様様 洋様 次 希様 様 彦様 義様 道様 織勉 伸 理事長 様 「教学振興会」 自 佐 倉熊菊上角小岡岡大榎浦浦井稲稲伊小安東県 以 三牧堀堀廣服長高齋木小稲市 等、 古 谷野田田瀬部川 戸本野出上葉垣藤 羽藤全澤 産学官連 名 絵美子様 へ の 康樹果和敏彦惺昭様様様様様様様 徹 浩 和

三平伊真 渡和山山矢森森宫南松松槇堀堀藤福平樋林秦秦橋西西鍋鍋中中中豊玉龍竹竹鈴菅更齋黒黒 和 ヒカ 裕 昌 サナ子 美 様 様 様 忠 臣様 二芳 洋 英 三 美 史 雄 様 様 様 様 宗史平和 和裕昌幸和正佳 古 由 子 美 剛 孝 子 太 様 様 様 様 舞様 次 崇 宏 様 様 道 吉長小池府 山幡斎長飯県 小野 菅 進 國 上 伊 安 安 横福福県 米米藤 行 富 日 浴 難 田 友 永 井田田 本垣木田塚  $\blacksquare$ 上 谷 田田 田田本 直 真喜子様

彦様

宏生朗様様

信様

平成28年度			<b>教学振興会寄付金納入状況報告</b> 平成28年4月1日~29年3月31日				
区	4	分	申込件数	申込金額(円)	納入金額(円)		
宗	教	界	280	29,660,000	25,690,000		
企		業	34	2,600,000	2,420,000		
館		友	530	5,741,000	4,901,000		
萼の会会員		471	3,405,000	2,525,000			
高等保	手 学 護	校者	140	1,000,000	780,000		
中保	学護	校者	51	410,000	310,000		
(篤;	志家	般 等)	11	430,000	390,000		
本法人関係			225	2,645,000	2,580,000		
合		計	1,742	45,891,000	39,596,000		

美津

分別 福武県 坂 買 神神金加伊伊出厚 室樋外津高新巫河伊 の会会員 吉 宮船西 山岡 畑西津今 下杉谷山藤藤藤沼木 留 野 橋 園口山村森西部多藤 下 本  $\blacksquare$  $\blacksquare$ みち子様 太様 喜美子 美由喜 紀春治 秀浩博智重隆義昌 孝 英 典 崇 千 敬 明 博正穰壽直靖亜 幸荒 光 時 次彦晃満希様様様 修尋文様様 高 様

一 史 夫 様 様

邦 秋様

四三古古橋仲神小岡東杉安学科 山山森三富東萩奈中寺谷加牛井石料 村牧濱中中下清佐坂木河加井天青 吉吉山山矢守宮松松野野 河 方上市居本井戸田本 﨑 藤 納場渕田 藤田上沖崎部村本村村口 村崎田木谷口野良島田 也浩一誠彦司征之久好人紀行洋郎様様様様様様様様 昌 松 千 英 宗 か 康 智 信 隆 宏 慎 さ 三 佳 武 治 久 り 司 世 也 司 準 好 明 治 様 様 様 様 様 様 様 様 様 様 様 様 德信由和敏直美慎昌 次治美昭弘樹夫一徳 様様様様様様様様 由記臣様 澄雄英衆和佳 均明美一久和彦高衛也様様様様様様様様様 至様 一德德典

16名 ●中学校保護者 6名 ●一般 2名 ●本法人関係 4名 ●企業 1件 ●館友 27名 ●等の会会員 26名 ●高等学校保護者個人情報保護に関する法律の施行に伴い、芳名の掲載をご希望さ個人情報保護に関する法律の施行に伴い、芳名の掲載をご希望さ 北 岡 岡 大 川 本 多 上 伊 谷藤 浩正孝久 喜 正 二幸治弥典様様様様

和余山山山山松松福林成鶴玉滝住坂坂小小栗楠奥遠伊磯浅 田野本本元中本澤井 文 充 敏 啓 久美 逸 閣 縣 様 様 様 太 浩 隆 克 郎 蝦 樹 治 逸明正 裕克重 久彦賢一久晴肇夫一栄英央昭夫之司郎昭樹様様様様様様様様様様様様様様様様様

山水松松平姬原野中中永田田高澤木木小伊 口谷本本野松田生村出田中代井 千和幸勝大隆浩至賢昌正浩正創ます。 思雄治弘輔生ニニニ司芳士範ニみ 俊 之様 型 雄治弘輔生一一一司 様様様様様様様様 司芳士範一み保誠文様様様様様様様様

駒 田 聡 子様 小 川 祐 子様 木 一様 一様 子喬子一様様様様

長崎県 有県 森川  $\mathbb{H}$ 口辺 尚典 福 澄 雄

山出金久小岡稲 賀口剛保内野垣 久友秀圭 章典巨聡功誠様様様様

吉山村村松藤福平濵橋橋西西西中中天寺出出積竜田瀬 

### 年間テーマ 日本史の岐路

谷日とも 時間●午後2時より 場所●4号館431教室

第1回 5月6日生 三国志とその後の倭国 堀 内 淳 一 准教授 第2回 6月3日(±) 大宝律令と古代国家 遠 藤 慶 太 准教授 第3回 7月1日生 禅宗の伝来 多 田 實 道 准教授

第4回 9月9日生 秀吉の「朝鮮出兵」と「三国国割構想」

岡 野 友 彦 教授 10月14日(土) 第5回 坂本龍馬と討幕 松 浦 光 修 教授 11月11日(土) 第6回 転換期としての大正時代 谷口裕信准教授 第7回 12月9日生

第二次世界大戦への岐路 ―三国同盟と松岡洋右― 田 浦 雅 徳 教授

古事記を読み解く(開化天皇~景行天皇の段) 文学部神道学科 教授 白山 芳太郎 4月8日生 開化天皇 7月8日(土) 垂仁天皇 下 5月13日(土) 崇神天皇 7月29日(土) 景行天皇 上 6月10日(土) 垂仁天皇 上 9月9日(土) 景行天皇 下

「神道と仏教」―神仏習合と神仏分離-文学部神道学科 教授 河 野 訓

6月24日(土) 霧島神宮における神仏習合と神仏分離 7月22日生) 十津川村における神仏分離 9月23日生 淡路島・伊弉諾神宮をめぐる神仏習合と神仏分離

|『日本書紀』を読む

4月22日(土) 1868年4月

8月5日生 神武天皇1一日向出発— 9月2日生 神武天皇2一熊野上陸一 9月30日生 神武天皇3一大和平定—

- 1 40 ana/	日日この時間 10:00 17:00		AN OF THE THE					
1日・短期	講習会							
4月1日(土)	伊勢参宮(餅)街道と菓子							
	非常勤講師(元文学部国史学科教授)	岡	田		登			
4月15日(土)	古文書を読もう一浪人となった或る戦国武将の悲哀一							
	文学部国史学科 教授	岡	野	友	彦			
F = C = (1)	続日本紀を読む ~神宮再建~							
3月 0日(工)	文学部国史学科 准教授	遠	藤	慶	太			
5 <b>07</b> 7(4)	伊勢神宮 ―歴史の聖地・神話の聖地―							
3 H Z I 🗖 🖽	文学研究科神道学専攻 教授	櫻	井	治	男			
7 p 1 p/±\	皇室の基礎知識							
	文学部神道学科 教授	松	本		丘			
0 п 26 п (т)	なぜ、若者は熊野を目指すのか?~聖地巡礼の現代的な変容から~							
0 7 Z 0 D (II)	教育開発センター 准教授	板	井	正	斉			
	4月1日(土)	1日・短期講習会       4月1日出     伊勢参宮(餅)街道と菓子 非常勤講師(元文学部国史学科教授)       4月15日出     古文書を読もう一浪人となった或る戦 文学部国史学科教授       5月6日出     続日本紀を読む~神宮再建~ 文学部国史学科 准教授       5月27日出     伊勢神宮一歴史の聖地・神話の聖地ー 文学研究科神道学専攻教授       7月1日出     皇室の基礎知識 文学部神道学科教授       8月26日(土)     なぜ、若者は熊野を目指すのか?~聖地巡礼の	1日・短期講習会         4月1日出       伊勢参宮(餅)街道と菓子 非常勤講師(元文学部国史学科教授) 岡         4月15日出       古文書を読もう一浪人となった或る戦国武文学部国史学科 教授 岡         5月6日出       続日本紀を読む ~神宮再建~ 文学部国史学科 准教授 遠         5月27日出       伊勢神宮 一歴史の聖地・神話の聖地一文学研究科神道学専攻 教授 櫻         7月1日出       皇室の基礎知識文学部神道学科 教授 松         8月26日は、なぜ、若者は熊野を目指すのか? ~聖地巡礼の現代	1日・短期講習会         4月1日出       伊勢参宮(餅)街道と菓子 非常勤講師(元文学部国史学科教授) 岡 田         4月15日出       古文書を読もう一浪人となった或る戦国武将の文学部国史学科教授 岡 野         5月6日出       続日本紀を読む~神宮再建~ 文学部国史学科 准教授 遠 藤         5月27日出       伊勢神宮一歴史の聖地・神話の聖地一文学研究科神道学専攻教授 櫻 井         7月1日出       皇室の基礎知識 文学部神道学科教授 松 本         8月26日出       なぜ、若者は熊野を目指すのか?~聖地巡礼の現代的な変	1日・短期講習会         4月1日出       伊勢参宮(餅)街道と菓子 非常勤講師(元文学部国史学科教授) 岡 田         4月15日出       古文書を読もう一浪人となった或る戦国武将の悲哀文学部国史学科教授 岡 野 友         5月6日出       続日本紀を読む~神宮再建~文学部国史学科 准教授 遠 藤 慶         5月27日出       伊勢神宮一歴史の聖地・神話の聖地一文学研究科神道学専攻教授 櫻 井 治         7月1日出       皇室の基礎知識文学部神道学科教授 松 本         8月26日出       なぜ、若者は熊野を目指すのか?~聖地巡礼の現代的な変容が			

文学部国文学科 教授 大 島 信 生 ●受講のお申込等、詳細は下記にお問い合わせくだざい。 お申込み・お問合せ近鉄文化サロン阿倍野

> 〒545-0052 大阪市阿倍野区阿倍野筋2-1-40 and 4 階 TEL 06-6625-1771 【受付時間】10:00~20:00 (日曜・休講日は10:00~17:30)

### イベント情報(4~6月)

22 土 皇學館大学共催講座 神道と仏教―神仏習合と神仏分離-「1868年4月」 河野 訓(文学部教授)

5 6 土 月例文化講座

431教室 三国志とその後の倭国 堀内淳一(文学部准教授)

皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野

続日本紀を読む~神宮再建~ 遠藤慶太(文学部准教授)

13 皇學館大学共催講座

古事記を読み解く(開化天皇~景行天皇の段)

「崇神天皇」 白山芳太郎(文学部教授)

27 上 佐川記念神道博物館教養講座 佐川記念神道博物館講義室 学芸員が語る三重の文化と魅力IV

「野生動物の調査と保護」

若林郁夫(鳥羽水族館 飼育研究部課長)

近鉄文化サロン阿倍野

伊勢神宮-歴史の聖地・神話の聖地・ 櫻井治男(文学研究科教授)

### 3 土 月例文化講座

大宝律令と古代国家 遠藤慶太(文学部准教授)

### 10 一: 研究開発推進センター史料編纂所古文書講座 佐川記念神道博物館会議室

第1回「古代文書を読む」

荊木美行(研究開発推進センター教授・副センタ 皇學館大学共催講座

古事記を読み解く(開化天皇~景行天皇の段) 「垂仁天皇上」 白山芳太郎(文学部教授)

24 土 皇學館大学共催講座

河野 訓(文学部教授)

### 24 土 佐川記念神道博物館教養講座 佐川記念神道博物館講義室

学芸員が語る三重の文化と魅力IV 「中世 四日の市と道~常設展示リニューアルの成果と 田中伸一(四日市市立博物館 学芸員)

●各講座の詳細につきましては、本学ホームページにてご確認ください。 ● 共催請座(近鉄文化サロン阿倍野)のみ、<mark>有料</mark>です。お問い合わせは近鉄文 化サロン阿倍野(☎06-6625-1771)へお願い致します。

●神道博物館教養講座は、事前の申込みが必要になります【先着順】。お問 い合わせは(☎0596-22-6471)へお願い致します。 ●史料編纂所公開講座・古文書講座は、事前の申込みが必要になります【先

着順]。お問い合わせは☎0596-22-6462へお願い致します。 ●その他お問い合わせは、皇學館大学地域連携推進室(☎0596-22-8635)

へお願い致します

長は本学で培った羅針盤を人 があるとし、 文化には の向上を訴えました。清水学 文化」と「心と礼の情的文化」 って磨きをかけていってくだ 生の規範として、 書授与式が執り行われまし 成二十八年度学位記・修了証 し上げます 三月十八日、 佐古理事長は告辞の中で 「知識と技術の知的 後者の充実、 皇學館大学平 生涯にわた お祝い申 魂

【訂正とお詫び】前号66号の7面、弔辞の原稿において誤りがありま ∰堀□家→正堀内家 した。ここに訂正し、お詫びいたします。

世界に"よさこい"の魅力を

当日、松尾観音寺の逸話

く迎えてもらい感動し

ーション学科二年の北雄 代表を務めるコミュニケ

大君は「現地の人に温か

た。また踊りに来たい」

と感謝の言葉を述べた。

にちなんだオリジナルの



観衆を飽きさせない工夫が随所に見られた -マンスを行うなど、

とめ 生きていくことに気付か 腐心したという。また、 大事」と話し、 の声に耳を傾けることが 亜沙海さんだ。 とでもありました」と語 人は人との関わりの中で をきちんと説明して全員 すときもその理由、 い。大西さんは るのは、実行委員長を務 ちが身を持って学んだこ めた教育学科四年の大西 納得してもらうことに 有志で集まったとは 九十人の大所帯をま るのは簡単では 決断を下 「みんな 根拠

めて観に来たと話す伊勢

一才の娘さんと今回初

学生の懸命な姿に感

市内の女性は「ジブリや

アナと雪の女王など子ど

もに人気の曲が使われて 来ていると言い、「メッセ と笑顔で語った。志摩市 るなど思わずくすりと笑 男子学生がお姫様を演じ からやって来たという親 る!』と喜んでいました。 ジもさることながら、 てしまう場面もあっ て、 大人も楽しめました」 娘が『これ知って 六年鑑賞に

を胸に刻み、 ある「助け合い」 がらも、本作の で有志一同が一丸となっ ユージカル。 て創り上げた卒業記念ミ 違いな 社会人とし 学んだこと テー てくれる の精神

せてきた。

だからこそ

年間

って、みんなで力を合

場や社会で頑張ってほし とで、 育学科の学生さんとのこ 語ってくれた。 できたことが伝わってき 生懸命練習に取り組ん 時にはぶつかり合いな と応援する気持ちを 心を打たれます。 卒業後も教育の現 教 mine Records よりファ 大君が五月二十一日、 教育学科四年の矢野翔

アルバ

ム

本格的に音楽活動を開

六月からは県内のイベン 分の力を試したいと去年 から声を掛けられた。

自

始。

その個性的な声

質と

そのプロセスの一つ」と

いんですよ、僕。歌手は 響力のある人間になりた て」と矢野君。続けて「影

として幅が出ると思っ

将来の展望を語る。

け、さっそく出身地・南

今回のデビューを受

共感を呼ぶ歌詞、メロデ

的には子ども

ィが再び音楽関係者の目

と接する職に就きたい。

やライブハウスを回り

に留まり、

に至った。

経験をしておいた方が人 そのためにも、いろんな

> がっている。今後の飛躍 されるなど活動の場が広 伊勢町の観光大使に任命

二月十一日、よさこい

岡本真夜さんなども所 Own WayJ 出場したカラオケ大会。 デビューすることが決定 する大手のレコ 転機は大学二年の時 でメジャー

ンカをして学校を飛び出 であるサンとヒナタ。ケ た二人は離れ離れにな 楽曲を十曲超とふんだん を改めて感じてほしいと らにミュージカルの魅力 めすべてオリジナル。 話や童話をベースにスト オリティの高い舞台に仕 に取り入れ、 今回はキャラクター ーリーが展開される中、 闘する。例年、 な世界を取り戻そうと奮 先の住人と知恵を出し合 助け合って元の平和 それぞれ行った先 本格的でク 東西の民 さ

主人公は魔法学校の生徒 脚本にもこだわった。

たんだと思 実行委員長の大西さん

ジカル。本年は「サンとヒナタのまほうのとび

なる教育学部四年生有志による卒業記念ミュー

昭和六十一年に始まり、今回で第三十一

回と

伝統とし

作品に込めたメッセ

は

が助け合うことの

ジカル創りを通して私た 大切さ、。それは、ミュ オリジナル脚本で挑んだ意欲

います」

成し遂げられ

ベニ千五百人が詰めかけた。

十五日)、本学記念講堂 (三月四日・五日) には延

の三重県総合文化センター中ホール(二月二

とのタイトルで開催され、

会場となった津

清掃を通して皇恩感謝の誠 皇居勤労奉仕とは皇居内の また見学等を行

参加して行われた。 の五日間にかけて、 営される奉仕団である。今回 編成された、学生によって運 る。学部学科を問わず全学で は三月六日から三月十日まで は今年で晴れて二十年目とな 皇學館大学の皇居勤労奉仕 出向き、 より、 皇室への の折には

いていくことを心から願って

後も皇居勤労奉仕が、皇學館

大学の伝統的な活動として続

の感じ方は変わるのではない

することによって、その重み

い。しかし実際に皇居に奉仕 講義や書物等で学ぶ機会は多

だろうか。私たちが卒業した

て続いてい 奉仕団代表 林 能

びに皇太子 加した団 来る数少な で奉仕に臨んだ。 すること 期間中、 一介 愛 皇室に対して奉仕出 子殿下による御会釈 員も皆、真摯な姿勢 ない機会であり、参 国心と恋闕心を涵養 理解を深めることに の学生が皇居に直接 を目的とした活動 天皇皇后両陛下並

ねぎらいの御言葉

### こを願って 貴(国史学科四年)

時に、感激の限りであった。

を賜り団員一同強縮すると同

れば、悠久なる皇室の歴史を

皇學館大学に通う学生であ

### よさこい部「雅

部「雅」が台湾で開かれ を魅了した。 代表メンバー三十四名は 舞を披露し、現地の観衆 掛け声とともに華麗な演 ル」に出演。威勢のよい 事務局から派遣を要請さ りイベント「安濃津よさ 備え猛練習に励んできた れ実現したもの。本番に こい」で活躍した同部が、 ランタンフェスティバ に旧正月を祝うイベント に開かれた津まつりの踊 この訪台は、昨年十月

浴びた。 踊り、惜しみない拍手を 十二日夜には台北市内

贈られた同部。安濃津よ 康光会長は挨拶の中で さこい組織委員会の宮木 で開催された政府観光局 主催の夕食会で感謝状を

の観衆の前で力いっぱい

たい」と語り、「雅」の副 いを海外でより発展させ てくれた。日本のよさこ 「学生たちは立派に踊っ 柔道と共に歩んだ道のり

高等学校教頭

平

賀

秀 忠

> 合が多かったが、それぞれに良 る生徒は何らかの事情がある場

- 退任によせて 1-2
  - 平成28年度出版物、平成28年度奨学金授与者 ほか
  - 研究開発推進センタートピックス ●神道研究所 ●佐川記念神道博物館 ●史料編纂所

当時の皇學館高等学校校長、鷹

温かいご支援には感謝ばかりで

思い返すと、保護者の方々の

人物は、剣道の有名な師であり、

尾敏文先生であった。

習していた折、私の師範に深々

炎暑の中、前職場の道場で練

と頭を下げる人物がいた。その

至るには十年以上を要した。

なかなか集まらず、団体優勝に かし、この厳しい稽古に生徒は させた。成果はすぐに出た。し は窓を全開にして寝技の練習を 塩を置いた。冬の凍てつく日に た。夏には窓を閉め、隅に盛り 心身を鍛えるには好条件であっ

> のである。この場をかりて、 ご協力なしにはなせなかったも

深

く御礼申し上げます。

皇學館の来歴

員として奉仕することとなっ

高校から始める者ばかりであっ た。この時、柔道部員の殆どは、 日から私は皇學館高等学校の教

そのフロントには、黒帯の結び

が描いてある。通称「黒帯

と中古のワゴン車を下さった。 ある。ある時、「これを使いな」

四月一日に辞令があり、その

デキゴトロジー

超え、冬場には零度まで下がり、 た。道場は、夏は日中四十度を

に携わってきた。訓育室を訪れ

として長く席を置き、生徒指導 有名になった。また、訓育部長 号」。県外の先生方にもすっかり



山に学び、二年間の寮生活を過

# 昭和四十五年四月、この倉田

とになります。この間、大学は、 の二近くを倉田山で過ごしたこ 育に携わりました。人生の三分 科(前後十二年間)で、研究と教 年十月から約四十年、附置研究 し、倉田山に新しい大学ができ 所の史料編纂所と文学部国史学 た観があります。また、周辺部 こし、大学院に進学し、五十三 、と拡大し、施設も大きく変貌 学部二学科から三学部六学科

文学部教授 利さは格段に増しています。大 にも飲食店などが多くでき、 岡 田

登

倉田山で研究と教育に邁進

平成二十八年度末で退職された方々から寄せられたメッセージをご紹介します。

科に学び、東京大学と本学にし かない史料編纂所で、奈良時代 存在する国史(他は、日本史)学 ました。現在では、日本で唯一 昭和三十七年私学として再興し 県にあった唯一の大学 (国立) の古伝を明らかにする」ことを 列することができました。 宮の第六十から六十二の三回の 五十年の慶節に立会い、また神 学創立九十・百・百三十年再興 で、国家の盛衰と運命を共にし、 趣旨に創立され、戦前には三重 式年遷宮に、皇學館人として参 本学は、明治十五年に「神宮

の宝となりました。

究と教育に邁進してきました。 ことの意義を学生と共に考えて び、人間力を高め、学問をする し、 ち、 学生教育では歴史の舞台に立 きる力を養うことを使命に、研 しないといわれ、これに反論で 代仲哀天皇以前の天皇は、実在 戦後の歴史学会では、第一四 卒論指導を通じて礼節を学 百聞は一見に如かずを実践

います。

つ、お世話になった皆様にお礼 大学の益々の発展を祈念しつ わることができ、職務上の最高 国家史に関わる『續日本紀史料』 (全二十巻二十二冊)の編纂に関

きました。

収集した多くの考古資料の整理 史に関わる遺跡の調査を進め、 神宮史)として、大学教育に関わ と報告をしていきたいと思って りますが、伊勢湾岸や日本国家 今後は、非常勤講師(考古学・

を申し上げます。

充実した日々に感謝

季ざくらのピンク色をした小さ きな喜びでした。体育館前の四

した。

ます。ありがとうございました。 退任のご挨拶とさせていただき 健康とご多幸とをお祈りして、 充実した時間を与えていただい 展と皆様方お一人おひとりのご た皇學館大学の今後益々のご発 最後になりましたが、本当に

28 26 日日

4 日

●月例文化講座〈新しい時代の「ヨリアイ」〉池山敦(教育開発センター助教)

21 19 日日

14 日

开正斉(教育開発センター副センター長・准教授)例文化講座〈お伊勢参りとお伊勢ぐらし〉

くれる花々と出会えたことも大 すことができました。心からお 姿勢と熱いまなざし、教職員の 究」等を担当させていただきま で、それぞれの美しさを見せて 礼を申し上げます。 れて、本当に楽しい時間を過ご 皆様方の優しいお心とに支えら 係科目他、大学院では「課題研 した。学部では特別支援教育関 した。学生の皆さん方の真摯な 平成二十三年四月から六年 季節ごとにその場所その場所 教育学部でお世話になりま

今年度限りであるが、柔道人生 と思う。 地よく響く。年を重ねたものだ はまだ暫くは続く。あの炎暑の て響いたが、今はその言葉が心 私には最大のプレッシャーとし 思い出される。若かりしころの る」という周りの声が懐かしく 年になる。教員としての人生は 私の柔道人生は間もなく五十 「皇學館の柔道部も強くな

導や生徒指導は、周りの先生方

および保護者の皆様のご理解と

がえのない大切なものである。 生徒との新たな繋がりも、かけ いところがあり、そこで出来た

私の教員としての柔道部の指

# ひたすら感謝



事があり、その都度、周囲のお 力添えを得て、ここまでやって 思い起こせばいろいろな出来 は剣道のお手伝いを、高校にお いては社会科に所属し、最初は の科目も交えて授業をやってき 現代国語と日本史、その後は他

皇學館に勤め、皇學館で成長

おります

のメンバーに「深く、感謝をし 高校の先生方、先輩、後輩、そ させてもらったと言っても過言 ております」。 ではありません。大学の恩師、 

思います。まずは、お世話にな 新しい目標があり、今後それを 日々の思い出をもう一度取り戻 を表したいと思っています。 った恩師のことを綴って、感謝 らこそ。この恩恵に報いるため 月がかかっても、あの懐かしい 少しでも、実現していきたいと いきたいと思います。私なりに からは社会に対して働きかけて たのは、皆さんがいてくれたか にも、さらに研鑽を積み、これ し、自身の糧にしたいと思って

> 14 日 10 日

Ш 西 建 夫

# 教育学部教授

栗 原 輝 雄

ことの喜びを存分に味わわせて り、彼岸花、萩、さざんか、紅 くちなし、あじさい、もじず 馬酔木、御衣黄桜、からたち、 ながらも、明るい光の中で今日 な花々は、寒風に身をふるわせ もらうことができたのも幸せで との出会いの中で、生きている ス内のこうしたたくさんの花々 きりがありませんが、キャンパ 梅・白梅等々、挙げていったら も私を見つめてくれています。

> 30日 23 日

立記念日

S書状―〉 岡野友彦(文学部教授) 催講座 1日・短期講習会(古文書を読もう ―洒井忠世から真田信之催講座 1日・短期講習会(伊勢志摩の自然と神話)橋本雅之(現代日本社会部教授)

七代」〉大島信生(文学部教授) 催講座(『日本書紀』を読む「天地開闢と三柱の神②、四対偶の八神・神

16 11 日日

期通常講義開始

9 日 4 日 2日

●共催講座〈『日本書紀』を読む「日本書紀の概要、天地開闢と三柱の神(1)」〉大島信生(文学部教授)

大

学

アキゴトロジー行

**山芳太郎(文学部教授)** | 出帯座〈『古事記』を読み解く「天若日子の反逆~安河原でのはかりごと」〉

今、こうして退職を迎えられ

れに生徒のみんな、特に担任を したとき一緒に過ごしたクラス 18 17 12 日日日 30 26 日日 25 19 日日

●人文學會第86回研究例会〈田山花袋』時は過ぎゆく』の同時代性 ―「空」をめぐるモチーフを出発点に―〉 小堀洋平(文学部助教)

野訓(文学部教授) 野訓(文学部教授) 四郎と伊勢神宮」〉山本命(松浦武四郎記念館主任学芸員)川記念神道博物館教養講座〈学芸員が語る三重の文化と魅力〓「松浦川記念神道博物館教養講座〈学芸員が語る三重の文化と魅力〓「松浦

**乂学会 文学散歩〈京都の技どすえ〉** 

下道信(文学部准教授)

山芳太郎(文学部教授) | |催講座〈『古事記』を読み解く「建御名方の服従~大国主命の国譲り」〉

の会総会・教育懇談会

**や宮節金物 ―正倉院文書を読む―」〉遠藤慶太(研究開発推進センター准教授)外開発推進センタ―史料編纂所古文書講座(古代文書を読む「天平時代** 

9 日 6 日 3 日 2 日 本昌弘(関西大学文学部教授) 本昌弘(関西大学文学部教授) プンキャンパス・ 10日

山芳太郎(文学部教授) 催講座(『古事記』を読み解く「三三ギの命の誕生~天孫降臨」) 山芳太郎(文学部教授) アカデミックセミナー2016〈日本人の信仰とその思想〉

刀〉菊地達也(東京大学大学院人文社会系研究科准教授) 道学科・神道学会共催講演会〈イスラム教における宗教的権威と政治

島信生(文学部教授) 場信生(文学部教授) ついて~〉 吉川松喜(伊勢まろつり株式会社代表版締役伊勢商工会議所副会興吉川建設株式会社で版締役)回現代日本塾〈伊勢市中心市街地に賑わいを!~伊勢まちづくり株式会社の収組

21 日 16 日

23 日

野訓(文学部教授) 惲講座(神道と仏教 ―江島神社における神仏習合と神仏分離) 怀み親子教室〈神宮の博物館で豆本をつくろう!〉 現代的な変容から~〉板井正斉(教育開発センター准教授)講座 1日・短期講習会〈なぜ、若者は神社を目指すのか?

〈神宮の博物館で豆本をつくろう!〉

30 27 日日

国文学専攻博士後期課程二年

日奈

●安部奨学金(十万円)

コミュニケーション学科三年

神道学科三年

江﨑 飯田

神道学科三年 海野

国史学科三年 国文学科三年 神道学科三年

昌宏

神道学科三年

航

博士前期課程神道学専攻二年

黒須

満 40 年

満 30 年

山際

中松

田黒

小林

26 日 24 日

小津かおり

西谷

志

教育学専攻修士課程

年

慶光院俊奨学金(+万円) 神道学科三年 西田日向子

安藤 伊藤

> 光希 翔平

神宮特別奨学金

(二十万円)

 $\Box$ 

神道学専攻科

黒田 黒坂

真弘

神道学科二年

中野

坂本

中井

中川

久保

晃子氏(同会会計)

健氏(同会会計)

朋華(皇學館中学校3年)

聖也(皇學館高等学校3年)

彩里(皇學館高等学校3年)

19 日

八坂神社奨学金

(十万円)

豊

直子

豊

**神道学専攻科** 

瀧下

国文学科三年 国文学科四年 岡田奨学金(十万円)

智香

● 長谷奨学金(十万円)

神道学科四年 新田

惠三

現代日本社会学科四年

現代日本社会学科三年 教育学科三年 富田

大谷

愛乃

現代日本社会学科三年

野祥太郎

教育学科匹年

鈴木

瑚都

神社本庁育英奨学生

神道学科匹年

高山伊奈里

奨学金

(十五万円)

相原

森

平野

中川

全国敬神婦人連合会

(三十万円)

伏見稲荷奨学金

尚泰

良明

幸洋

雅人

ひとみ氏(皇學館中学校保護者会副会長)

橋村さくら氏(皇學館高等学校保護者会会計)

(二十四万円)

辻岡夕起子

学外奨学金授与

玉置はるな

教育学科三年

· 皿 屋

真里

コミュニケーション学科四年

橋本真梨子

国史学科四年

岸田 駒谷 佐伯枝理子

玲奈

教育学科二年

打田 **武** 田 吉野 近世上方道中記

甲斐素純 著

平成二十八年度

奨学金

授与者

国史学科二年

神道学科三年

朝倉

未帆

国史学科三年 国文学科三年

井村 橘

コミュニケーション学科三年

国文学科四年

日菜

国史学科二年

木村

国文学科二年 神道学科二年

中 勝部

梨恵 直暉 あずさ

国史学科三年

薗部

神道学科四年

給付奨学金(十万円)

国文学科三年 和波

厚樹 健

神道学科三年 阿竹

萼の会教育奨励賞

坂本 安藤由希奈

佳子

現代日本社会学科三年

井坂

教育学科二年

片岡みずき

された三重県私学大会において、私立学校教育振興のため

平成二十八年十月八日に三重県総合文化センターで開催

永年尽力された功績者、保護者及び優良生徒が表彰された。

教育学科二年

鈴木

優里 優果

白田

美結

現代日本社会学科二年

中川

本学関係者は次の通りである。

誠

正樹

昌也

隆弘

教育学科三年 教育学科三年

水谷友香理 福井

菜央

コミュニケーション学科二年

第五十

回

県私学大会表彰

財務部技能職員(技手)

(図書カード三万円分)

学内奨学金授与

●館友会奨学金(十万円)

間

河 邑

高等学校教諭 先生方のことが徐々に思い出さ 当時の些細な出来事や、厳しく そして温かくご指導いただいた

年度はおろか、 てきました。 そして始まった教員生活。 年目、 三年目 初

すから悔いの無いよう頑張りま

活は一瞬で過ぎ去ってしまいま

、二年生の皆さんも、高校生

**十数年前のことです。卒業以来** 私が皇學館高校を卒業したのは

を今でも鮮明に覚えています。 校舎に足を踏み入れた時のこと

不安と緊張がすぐに心に擡げ

に全力で取り組んでください。

三年前の四月に皇學館高校の

した。同時に、

思い出すことも無かった高校生

A 5 判 · 133頁

B6判·382頁

A 5 判 · 138頁

本体 1210円 + 税

各B 6 判・本体 **477**円+税

本体 1490円 + 税

本体 2741円 + 税

肥後国慈尾村の郷士が、幕末下関から瀬戸内を

海路で、途中の名所を巡りつつ奈良、京都から伊勢 参宮。六月小倉に戻るまでの紀行文。折々に描いた

研究開発推進センター 史料編纂所 編 本体 2000円 + 税

別府の福嶋御塩焼大夫文書は、豊後大友家一

門から外宮御師・御塩焼大夫に対して宛てられた書

状である。伊勢信仰を全国に広めた御師の活動が古

伝統的なナチュラル・ライト=自然法の概念は近代

わが国のこれまでの文化政策を吟味し、この国のあ

るべき姿の再興と実現にむけて、文徳・武徳をもって、

国民を教化していく方針・方策としての文化政策論を

丘処機『西遊記』を読む ―チンギス・ハンと会った道士 文学部准教授 松下道信著

文学部教授 松本 丘著

文学部助教 木村徳宏著

文学部教授 加茂正典 著

お電話またはFAXにてご連絡ください。

TEL·FAX 0596-22-6320 皇學館大学出版部

書名・冊数・住所・氏名・電話番号をお知らせください。お支払いは郵便振込にてお願いします。別途送料(270円)をご負担いただきますので、ご了承ください。

神様に奉る御食事

宮中のまつり・伊勢神宮のまつり

「まつり」と「おもてなし」の心

—鈴鹿家所蔵「大嘗祭神饌図」

において断絶し、自然権へと変貌した。ナチュラル・ラ

旧跡の緻密なスケッチは貴重。(残部僅少)

神宮御師資料 第8輯

文書から浮かび上がる。

ナチュラル・ライトと歴史

イトの概念の変遷を描いた新訳。

文化政策論 序説

岩崎正彌 著

第164輯

第165輯

第166輯

展望する(梗概より)。

レオ・シュトラウス 著、遠藤 司 訳

館高校の教壇に立つ責任の重さ 懐かしさと嬉しさを感じま 教員として皇學 圭 太 三年生の皆さんは高校卒業、そ るのが今ですから、一つひとつ 遇します。そのための力をつけ の後には進学や就職といった、 さんに、とても感謝しています。 した。 人生の中でも大きな出来事に遭 した。優しく、

しょう。 最後に、

お世話になった先生

方に心より御礼申し上げます。 生徒の皆さん、保護者の方

会前の緊張感は選手時代と同じ ました。 でき、忘れられない大会になり ような緊張感を体験することが

た。学園関係者や選手の皆さん 學館高校を去ることになりまし には期待に応えられず申し訳な 崩し二年間という短い期間で皇 このたび残念なことに体調を 最後になりましたが、

10 5 4 日日日

知)の拠点整備事業公開シンポジウム

3 日

島信生(文学部教授) 場信生(文学部教授)

29 27 日日

●8月学位記授与式(卒業式)●萼の会地区別教育懇談会

公会地区別教育懇談会 ~28日

20 7 日日

●共催講座〈『日本書紀』を読み解く「猿女君のいわれ~コノハナサクヤヒメと
 ●オープンキャンバス
 ●共催講座〈『古事記』を読み解く「猿女君のいわれ~コノハナサクヤヒメとの結婚)〉白山芳太郎(文学部教授)

6 日

ふるさと講座〈倭姫命の伊勢巡幸と伊賀国〉 岡田登(文学部教授)

りお祈り申し上げます 高校の更なる御発展と、皇學館 高校野球部の甲子園出場を心よ

17 日

佑紀(研究開発推進センター共同研究員)開発推進センター史料編纂所古文書講座〈第1回「近世文書を読む」〉

ター長・教授)、黎明期のヤマト王権〉若井敏明(関西大学非常勤講師)明『邪馬台国の滅亡』にふれて―〉荊木美行(研究開発推進センター副セ究開発推進センター史料編纂所公開講座〈邪馬台国の所在地 ―若井例文化講座〈元気なまちのつくり方〉千田良仁(教育開発センター准教授)

### になっても、私が生徒の皆に助 けられる構図は変わりませんで 授業以外でも助けられま 明るい生徒の皆

迎えた頃、 いただきました。 高校野球の指

あり、高校野球の指導者の話を |年前定年退職をあと半年に 皇學館高校の訪問が

夢を追った二年間

### 話でした。ただ、年月が経ち過 進んだ私にとっては夢のような 導者になりたい為に教員の道に

高等学校常勤講師 髙 倉

修

きませんでした。しかし、家族 進むことができました。夏の大 の後押しもあり、新しい世界に の生活を思うとすぐには決断で ぎていた事や、年老いた両親と

平成29年3月31日付

大



(事務嘱託)

角屋

重敏

1日

6 日

限会社菊乃代表取締役〔旅館海月 女将〕・有限会社オズ代表取締役〔海島遊民くらぶ〕〕、40回現代日本塾(伊勢 志摩国 立公園 指定70周年とエコ・ツーリズム) 江崎貴久|物文化講座〈いらっしゃいませ。 商店街のミライ〉筒井琢磨(現代日本社会学部教授)

講座〈『古事記』を読み解く「神武天皇(上)」〉白山芳太郎(文学部教授)

|信生(文学部教授)

|訓(文学部教授) |講座(神道と仏教 ―粉河寺と産土神社における神仏習合と神仏分離)





学生支援部教職アドバイザー

学生支援部就職アドバイザー

野

満男

24 21 20日日日

月学位記授与式(卒業式)・入学式

滕慶太(研究開発推進センター准教授) 催講座 1日・短期講習会〈桓武天皇と『続日本紀』〉























栗原

檜垣 祟 博子 昭二 輝雄 徳宏

局等学校教頭

(事務嘱託)

法人監査室室長 教育学部特命教授 教育学部特命教授 文学部助教 文学部教授

Ш

学校事務部カウンセラ 高等学校常勤講師 高等学校教諭 局等学校教諭

河邑 Ш 西 賀 圭太

校









15 8 日日

建夫 秀忠

野訓(文学部教授) | 世訓(文学部教授) | 一多賀大社における神仏習合と神仏分離)

**「佑紀(研究開発推進センター共同研究員)プ開発推進センター史料編纂所古文書講座〈第2回「近世文書を読む」〉** 

20 17 日日 

王催教育講演会〈日本の元徳〉 菅野覚明(文学部教授)

/24K 代表取締役) 回現代日本塾〈01トンの道程 ~地域と共に~〉

小役丸秀一(株式会社

·宮、出雲大社 ―ふたつの聖地のはじまりを巡る―〉 県・島根県×皇學館大学・三重県生涯学習センター連携協定事業〈伊

修

●共催講座〈『日本書紀』を読む「素戔嗚尊の乱行と追放」〉

西

良孝

22 日

勢神

枚生英語 スピーチコンテスト

28 23 日日

物館学芸員課程卒業展示 ~11月26日

嶋龍一(外交ジャーナリスト、作家) 陵祭講演会〈激動の世紀の行方を読み解く ~中ロの動向と日米同盟~〉育学会 教育エキスポ2016 文学会 研究発表会

至山参拝·参拝見学 日英比較文化研究会〈21世紀の新しい文学~文学が他分野とつながる可能性~〉2024年度皇學館大学・ケント大学学術交流シンポジウム(津田学術振興基金フロジェ

副総務委員長立候補者立会演説会

12 10 8日日日

2 日

30 日

北海道の名付け親とされる三

こ斎宮」として日本遺産にも指

昨年度「祈る皇女、斎王のみや

第1回

第2回

第3回

第 4 回

斎宮歴史博物館学芸普及課長

榎村寛之先生

松浦武四郎記念館主任学芸員

命先生

第二回

六月二十五日

六十五名受講

~よみがえる『幻の宮』~]

野生動物の調査と保護

中世 四日の市と道

伊勢地方と曾我蕭白

伊勢神宮と日本文化 講師●神宮禰宜·神宮徴古館農業館館長 河

時間●午後 2:00~

松浦武四郎と伊勢神宮」

史と、県内外への広がり、また

である萬古焼について、その歴

四日市の代表的な伝統工芸品

「萬古焼の歴史と魅力」

講師 浅川充弘先生 朝日町歴史博物館次長

樺太への勧請などお話しいただ

5月27日(土)

6月24日(土)

10月21日(土)

11月25日(土)

への参詣や神宮神職との交流、

県出身の松浦武四郎につい

は学園報第六十三号)。

室を開催し、好評を博した(詳細 三十一日の両日、夏休み親子教

伊勢神宮との関わり、神宮

回

五月二十一日

四十四名受講

作品の魅力についてご紹介いた

癒をお祈りいたします。) せていただきました。早期のご快

十一月二十六日

平成29年度教養講座のご

☞▼ 学芸員が語る三重の文化と魅力 IV

講師●鳥羽水族館飼育研究部課長 若 林 郁 夫 先生

~常設展示リニューアルの成果と課題

講師●三重県立美術館学芸普及課長代理 道 田 美

講師 四日市市立博物館学芸員 田 中

五十四名受講

(講師の先生が急病のため中止さ

十月二十二日

# 期待がかかる「研究開発推進センター」。平成二十八年度の活動を報告します。平成二十五年四月に発足して以来、地域の知の拠点としての役割にさらなる ピックス

# 多彩な史料から「殯」研究を 公開学術講演会

館二三一教室で開催され、一三 文学部教授)が、平成二十八年 (二〇一六)七月六日、本学二号 西本先生は、古代の葬送儀礼 人が参加した。 公開学術講演会「殯・殯宮と (西本昌弘関西大学 様々な視点から論じられた。ま 古代文献、古代中国の葬礼等の 遺跡の遺構や『日本書紀』等の

外の殯宮は宮都近辺には置かれ 殯宮について講じられ、「天皇以 で現在の通夜に当たる殯、特に かった」という従来の説に対し、 古代皇族の殯とその斎場となる

加した。

いる事に対し、古代皇族の殯・数首の挽歌のみから論じられて を用いた研究が必要であると講 殯宮を考えるには、多彩な史料

# た、従来の説が『万葉集』内の 白熱した討論で会場を魅了

講義室で開催され、六十人が参 七日、本学佐川記念神道博物館 書紀の受容をめぐって』が、平 成二十八年(二〇一六)十二月十 我が国最初の官撰正史である 公開学術シンポジウム『日本

の受容について着目し、古代・ われていたことが知られる。平 迎える今、本会では『日本書紀』 成三十二年に撰録一三〇〇年を ら七回にわたる講書・訓読が行 に撰上され、翌年の養老五年か 『日本書紀』は養老四年(七二〇)

この講演の内容は、『皇學館大

第四号に収録予定である。 学研究開発推進センター紀要

-公開学術シンポジウム

ある。 ター紀要』第四号に収録予定で 『皇學館大学研究開発推進セン このシンポジウムの内容は、 題者等は以下の通りである。 広げられ、会場を魅了した。発 議論された。『日本書紀』研究の のように受け入れてきたのかが 中世の人々が『日本書紀』をど の視点から白熱した討論が繰り 線で活躍する研究者らが集 訓読・註釈・写本の三つ

訓読史」、原克昭先生(立教大学 大学人文学部准教授)「日本書紀の 発題/是澤範三先生(京都精華 進センター准教授) 「日本書紀写 メント/大島信生(本学文学部 田本の調査から―」、司会・コ 本と中世神道説―日本書紀熱 の現場と言説―竟宴・進講・ 文学部助教)「『日本書紀』 註釈 伝授」、遠藤慶太(本学研究開発推

## 史料編纂所

# 終了後も質問相次ぐ 公開講座、古文書講座

疑が交わされた。 定時間を延長して熱気のある質 神獣鏡の位置づけなど、終了予 説・箸墓古墳の年代観・三角縁 っぱいになる盛況で、荊木美行 と会場の神道博物館講義室がい 催した。申し込みは四十名以上 画 邪馬台国とヤマト王権」を開 平成二十八年九月十日「特別企 の著者・若井敏明先生を迎え、 と討論を行った。邪馬台国東遷 黎明期のヤマト王権」の二報告 邪馬台国の所在地」・若井敏明 公開講座は『邪馬台国の滅亡

世文書」の二本立てで開催。「古 古文書講座は「古代文書」「近

代文書」は「天平時代の神宮飾金 文」(荊木美行)と題し、それぞれ

# 平成二十八年度 学芸員課程卒業展示

定された斎宮の概要と斎宮跡調

査の歩みについて、

最新の発掘

成果を踏まえお話しいただいた。

学芸員課程を履修する四年生

展示解説も行った。

【開催期間】平成二十八年十月

二十八日~十一月二十六日

期間中(十月二十八日~三十日) り開催し、会期中、八四六名の となった。今年度は下記のとお および最終日には、学生による 方にご来場いただいた。倉陵祭 による「卒業展示」も、十二年目

の行事として、七月二十七日・

教養講座の他にも、毎年恒例

の回も県内各地から聴講生が集まり、熱心に聞いていた。 化と魅力Ⅲ」のテーマのもと、左記の三回を実施した。いずれ

学芸員が語る三重の文化と魅力Ⅱ

教養講座

平成二十八年度は、前年度に続いて「学芸員が語る三重の文

第一班「おふだ・ふだ―信じるこ |班||節目の祝い|

人生儀礼と

合 真 会場●皇學館大学 佐川記念神道博物館講義室

貴 先生

定員 各60名 (定員になり次第締め切ります)

史料編纂所第一部門の業務で

電話またはご来館の上、直接お申し込み下さい

皇學館大学 佐川記念神道博物館

家族のこころ―

地域、御師の活動を具体的に解 者まで、文書の実物を前に質問 書をとり上げる予定である。 が相次いだ。平成二十九年度も 説し、初心者から講座常連の猛 ながら、江戸時代の神宮と伊勢 員)である。くずし字を読み解き た。講師は昨年好評だった谷戸 し、合計七十一名の参加があっ 名を数え熱心な受講生が多い。 解きを披露した。参加は計六十 谷戸先生を講師として御師の文 家の文書を採りあげて三回開催 古代史の基本となる文書の読み **佦紀先生(本センター共同研究** 「近世文書」は伊勢御師・大主

行を記念したもので、刊行に尽 は『神宮御師資料』第八輯の刊 開講座の開催が決定した。これ だく予定である。 同研究員)両先生にご報告いた 力くださった恵良宏(本学名誉 教授)・窪寺恭秀(本センター共 さらに御師をテーマとした公

究」(荊木美行)が科研費研究に 筆を進めるとともに、新たに 紀紀年史料の総合的研究](遠藤 は、「続日本紀を中心とした八世 具撮影を行い、影印版の刊行に から四月にかけて熱田神宮で写 採択された。平成二十八年三月 慶太) として文献解題原稿の執 『日本書紀』熱田本の史料的研

12 11 8日日日



18 12 日日 21 19 日日 25 日 20 日 18 11 日日 25 24 日日 4 日 4 日 日 27 日 26 日

向けた研究がスタートしている。

30 20 13日日日

立記念日

年生スタディーサポート 年生オリエンテーション~15日 面式・1 年生神宮参拝

● ● ● 保第 3

味護者会・後援会総会第1回公開授業の年保護者対象進路説明会

29 22 日日 ●学校閉鎖~1月5日●秋学期通常講義閉講 字期通常講義閉講

7 日

利正守(文学研究科教授) 催講座 1日・短期講習会〈日本最初の法文 聖徳太子の「十七条憲法」〉学期通常講義再開

12 10 日日

14 日

|登(考古学研究会部長、文学部教授)||学研究会講演会(考古学、この一年(平成28年度))

惟講座〈『古事記』を読み解く「綏靖天皇」〉 白山芳太郎(文学部教授) 入試センター試験 ~15日

①〉 大島信生(文学部教授) 催講座〈『日本書紀』を読む「葦原中国勢志摩共生学講義(鈴木健一伊勢市長) を読む「葦原中国の平定、皇孫降臨と木花之開耶

**启一紀文学部教授退任記念講義〈伊勢商人の本箱〉** 

学期通常講義終了野訓(文学部教授) 野訓(文学部教授) 特別支援教育臨床に携わる人々に今、求められていること―〉原輝雄教育学部教授退任記念講義〈子どものこころとどう向き合うか

「海幸・山幸説話と鸕鷀草葺不合尊の誕生(1)」〉大島信生(文学部教授)
●共催講座(『日本書紀』を読む「葦原中国の平定、皇孫降臨と木花之開耶姫(2)」 「岡田登文学部教授退任記念講義〈大倭(日本)国家の成立と伊勢の大神宮〉 ・建国記念の日・神宮参拝 **|講座〈『古事記』を読み解く「安寧天皇~懿徳天皇」〉 白山芳太郎 (文学部教授)** 

|講座 1日・短期講習会〈古文書を読もう ―合戦の名前はいつ付いた|

教育学部卒業記念ミュージカル「サンとヒナタのまほうのとびら」津公演 村徳宏(文学部助教) | 作講座 1日・短期講習会(神道の作法 ―装束と衣紋道―)

● 教育学部卒業記念ミュージカル「サンとヒナタのまほうのとびら」伊勢公演~5日● 教育学部卒業記念ミュージカル「サンとヒナタのまほうのとびら」伊勢公演~5日

・ 大催講座 (研究開発推進センター准教授)
● 共催講座 1日・短期講習会〈木簡の歌と梅・桜〉
● 共催講座 1日・短期講習会〈木簡の歌と梅・桜〉
・ 共催講座 (古事記」を読み解く「孝昭天皇~孝元天皇」〉白山芳太郎(文学部教授)

で暮らし続けるために~〉回皇學館大学・三重大学合同シンポジウム〈マチとムラから考える~

訓(文学部教授) 訓(文学部教授)

さと講座〈美旗古墳群と伊賀の青墓〉 岡田登(文学部教授)

寮日

31 30 29 27日日日日 人生登学日

校

業式 54回入学式



中



学





8日 ● 入学式 の対面式 30 22 19 12日日日日 ● 1 年生オリエンテーション ~12日

第1回実力テスト第1回実力テスト1年神宮参拝・クラブ紹介 • 創立記念日

19日 ●校友会総会 14日 ●授業参観·保護者会·後援会総会 7日 ●中体連春季大会 ~8日

和七年創立五十周年記念の館友

天野氏の論はさらに神宮皇學

# **入学昇格への道・神宮皇學館から神宮皇學館**

呈學館大学名誉教授

渡

格化することとなった。 学校から大学への昇格運動が本 **期成同盟会**」が結成され、専門 本部を東京におく「皇學館発展 本館卒業生(館友)を中心として 昭和九年(一九三四)十一月、 大会においても母館のさらなる

昭和七年(一九三二)の実態は、 が創立五十周年を迎えたウ、 でみると、本館の官制が制定さ 私立)質量ともに拡充をみせて 校・専門学校)は(官立・公立・ 新大学令の公布以降、我国にお ける高等教育機関(大学・高等学 イ、大正七年(一九一八)、本館 いた。これをその学校数の増加 大正七年(一九一八)十二月の 新大学令が公布された ア、明治三十六年(一九〇 大学2校・高等学校8 大学 5校・高等学校 8 校・専門学校36校

望む声は尚、大正末年から昭和 寿々』第六号、昭和二年八月)、昭 うかたちは持続された。これに 質の拡充の諸策がはかられる 革を加え、学府としての本館の 授と兼官)のもと大正十五年(一 を単科大学たらしむるの議」 として続き(逢源斎「神宮皇學館 初年に館友神職界から強い提案 かし大学昇格、神祇大学設立を 五)」に述べたところである。し ついては本稿「皇學館の来歴(十 も、内務省所管の専門学校とい 九二五)、従来の本館学制に大改 にのぼっていたが(大正八年)、 でに新大学令施行直後から世評 **|田萬年館長**(東京帝國大學教 本館の大学昇格についてはす 大学47校・高等学校32 校・専門学校170校 校・専門学校96校 以上、斯道の最高学府たらねば の真珠の塔は比頃迄は小揺ぎも 昭和初年の官立専門学校の頻立 学等の職業教育をも施す、神祇 学を作るの謂ではない」、「神祇・ 理想的でない」、「従来の文科大 が学校なる形式に於て存在する たる昇格!!醇美なる神宮皇學館 における私立大学の大量創立、 大学即神宮大学たらしむるにあ しなかった。」、しかし「皇學館

表(『館友』三〇四号三〇五号・ 宮皇學館昇格論」なる雄篇を発 年間に構想した結論として「神 ることがあったが、昭和八年三 格運動の起爆剤となった。 昭和八年九月十月)し、以後の昇 月神宮皇學館本科(第四十二回) 発展の根底として熱く議論され (当時は鹽竈神社出仕)が在学四

偶然ではない。然るに社会は駸 学を母館に修めた先輩諸氏の活 界の最高学府であった。当時、 ある本館は「大学の少い明治末、 の世界もまたより高い一流の学 の世界の現状を分析すると共 界、官国幣社の高等神職の神祇 々乎として進歩した、大正年間 躍の目覚しきものがある。蓋し 治中葉以降四年制の専門学校で 識が求められているとみる。明 に、それに安住しがちな本館の 範学校)の国漢歴史の教育の世 校・高等女学校・実業学校・師 活躍の場である中等学校(中学 大正初年では、母館は事実上斯 現状を憂慮すると共に、それら 天野氏の論は、本館卒業生の 同を得ることが出来た。

九月以降、内務省・神宮・皇學 我が国の初等・中等・高等の教 ネックとなっていた。明治以降 を得なければその学制の改訂は の賛同を得ても、内務省の了解 その上の**内務省所管**、神宮当局 十六年(一九〇三)以降はさらに さらに官制が立てられた明治三 であった。昭和十年(一九三五) 育体制は**文部省が所管**するもの 大学昇格も内務省所管が大きな 歩も前進しない。大正末年の

館昇格の実際論に及び、神宮大 る。」と結ぶ。 を組織しようではないか」、「速 上、「、神宮大学昇格期成同盟会 宮大学の体裁と具体的な提案の 学の目的・神宮大学の特色・神 かに実践運動を起すべきであ

された。早速に運動方針などを 参加し本格的な昇格運動が開始 治三十八年本科第十四回卒、当 表が神宮皇學館当局及び神宮司 の両教授、並に学生代表二名も らも館友の鶴藤幾太・鈴木友吉 社宮司)を代表者として、母館か 年本科第十一回卒、当時八坂神 からは額賀大直氏(明治三十五 時東京外国語学校教授)、神社界 た。教育界からは友枝照雄氏(明 館発展期成同盟会」が結成され は本稿冒頭に記した如く「皇學 ろとなり、翌昭和九年十一月に の共鳴を得て、同年の末には館 るる長文の提言は早速館友諸氏 庁に対して、趣旨を説明して賛 審議し、翌十二月には同盟会代 友会東京支部のとりあげるとこ 友会宇治山田支部、さらには館 天野氏の真摯にして熱誠あふ ず文部省移管への方策に転じた。 ては大学昇格への意欲は断念せ 的となったが、期成同盟会とし

八八二)の創立当初は神宮所管 都大学設置に関する建議案につ 員川崎克氏より「伊勢聖地に神

館・期成同盟 の発布」を期 令以上のもの 会して懇談協 会の四者が参 待して内務省 議を重ね

実に当ることが適当である」と 研究してきた あるから、現状のまゝで内部充 所管の大学の 時の法制上叶わないことが決定 の結論が伝えられた。 能である。」、「大学昇格は困難で 実現の方策を 「内務省所管の大学は実現不可 内務省所管のまま大学昇格は 翌昭和十一年五月の会合で 内務省の最終的見解として

性をもって検討が深められた。 されていた。昭和十一年九月に 省移管の方策もという案も具体 学昇格不可能なりとせば、 皇學館の大学昇格問題はこの調 が勅令によって公布され、 の設置が是非必要であると明記 都の精神的施設として「大学」 画が具体化して、その中には神 て拡充するという「大神都聖地 査会で協議されることになっ 計画」が進行していた。その計 宇治山田の地を「大神都」とし た。そこでは内務省所管では大 「神宮関係施設調査会官制」 文部

しかし、本館は明治十五年(一

予科(三年)・附属専門部(三年) 新大学の構想は学部(三年)・

寬



六月・八月には神宮皇學館長よ 原田敏明氏(大正八年、本科第1 教授の任にあり、学界に明るい 三年、本科第十九回卒)、母館の 学の構想、その実現のための具 皇學館の伝統の継承のもと新大 鉦作を選出した。そこでは神宮 明・高畠光明・大塚竜夫・小島 西村為之助・鈴木友吉・原田敏 枝照雄・額賀大直・古川左京・ 本部も東京から母館に移し、そ 会のより拡充が決議され、その 八月の館友大会では、期成同盟 臣・文部大臣宛に昇格申請書を り神宮大宮司を経由して内務大 るという建議であった。その年 任された古川左京氏(明治四十 た友枝・額賀両代表のもと、特 に実行に移されたが、前に記し 体的な活動方法が検討され直ち 実・長谷外余男・石上清治・友 の委員に神社界・教育界・学界 提出、両省の了承を得た。同年 にこの年二月に神宮少宮司に着 〒八回卒)の尽力は大きいもの 一線で活躍する館友の森田

方、当時内務省が主管して

ら満五ヶ年を閲した春であった。

**学休業開始** 

~4月7日

スマッチ~23日

史国文ヲ主トシテ課スルモノト 典関係学科ニ於テハ、神道研究 専攻にはさらに第一部(国史)第 トシ、コレガ研究ニ必要ナル国 実施ニ必要ナル学術ヲ授ケ、古 シテ、神道精神ニ基ク社会教育 於テハ、国体及日本法学ヲ主ト 研究応用ニ必要ナル哲学的方面 學学科編成案』には、その首文 省に提出された『神宮皇學館大 を為すという構成である。文部 道研究の根幹をなす古典の研究 からなり、学部は祭祀・政教・ 祀及神道ヲ中心トシテ、コレガ 重点ヲ置キ以テ教学刷新ノ趣意 基キ、綜合的人格教育ノ実施ニ ツキテハ、祭政教一致ノ理想に 古典の三専攻を置き、その古典 ノ諸学ヲ配シ、政教関係学科ニ 其ノ祭祀関係学科ニ於テハ、祭 雌ニセンコトヲ期ス」とあり、 二副フト共ニ、特殊大学トシテ ノ根基ヲナス古典ノ研鑽ヲ専ラ /機能ヲ発揮シ、其ノ特色ヲ明 一部(国文)に分かれ、合せて神 「学部ニ於ケル学科ノ諸制に 17 4 6 月 30 29 18 17 8 4 2 日日日日日日日 25 21 20 19 16 14 7 4 日日日日日日日日 29 27 15日日日 20 日 3 日 29 日

學開学が決定した。昭和九年の 得られず難航したが漸く第三回 現が言明され、文部省において 部の両大臣より、速やかなる実 學館の大学昇格問題についての 会に於いて、川崎克代議士の皇 算措置を待つばかりとなった。 た大学昇格申請書に基づいての **皇學館発展期成同盟会の結成か** 月には帝国議会を通過、十五年 (十四年十二月)で承認され、三 大蔵省の予算審議査定に当たっ 番議、内務省との了解も成立、 は七月にはかねて提出されてい 質問に対し、木戸内務・荒木文 ては第一回第二回とその内示が 八月には文部省議も決定し、 一九四〇)四月に神宮皇學館大 昭和十四年二月第七回帝国議

27 24 22 15 9 2 1日日日日日日日 16 11 10 2 19 17 16 2 12日日日日月 26 22 20日日日 30 28 19 16日日日日 30 14 12日日日 15 13 9日日日 10 日 ● 2 年進路講演 ● 学年末考査 ~ 7 ● 父母の日 ● 家庭に感謝する日の行事 ●修学旅行 ~ 7日 教育実習 建国記念の日の講演 ・始業式 ンター試験・年進路講演 護者懇談会② 友会総会 る 成28年度入学試験 護者懇談会 ダンス発表会道・バドミントン大会 3回オープンスクー2回公開授業 -高合同)~4日 。月7日 ーストラリア語学研修 末考査 ~7月4日 海総体 岐阜県 ~19日 2 年保護者対象進路説明会 権教育講演会 災避難訓練 **学休業開始** 木·卒業考査 ~7日 内実力テスト(1・2年) **里県私学大会** 部私学大会 ~30日 **局祭~16日 震避難訓練 学休業開始** フスマッチ ~15日 **及会本部役員立会演説会 里県高校総体** 生京都フィールドワーク~17日 大会 スピーチコンテスト回皇學館中学校・高等学校 ~6月10日 ~ 21 日 20 10 5日日日 23 17 13 4日日日日 25 20 19 10 8 日日日日日 24 16 10 8日日日日 5 日 29 22 17 11 5 日日日日日 4 3 1日日日 30 28 19 12 4日日日日 20日 ●第1回皇學館中学校・高等学校 25 23 1日日日 30 27 11日日日 4 日 7 日 5 日 2 日 23 日 31 25 日日 ロ ●家庭に感謝する日の行事 ・ 中嘗祭 ・ 中嘗祭 ・ の ● 中祭 ~ 23日 ・ 中嘗祭 □ ●地震避難訓練 □ ● 申高合同オープンスクール □ ● 即末考査 ~ 15 日 □ ● 生学館デー □ ● 生学館デー □ ●保護者懇談会②□ ●保護者懇談会②□ □●学年末考査 ~33日 □● 日程入学試験 □●日程入学試験 ● 春季休業開始 ● 経業式・卒業式 ・経業者懇談会 ~ ●課外授業 ~29日 ●夏季休業開始 ~。 ●授業参観・授業公開Day • 保護者懇談会① ● 休業日(伊勢志摩サミット対応) ~27日 ●第3回オープンスクール●伊勢市連合音楽会 授業開始 ●中間考査 • オープンスクール② 授業開始 ~12月2日 ~1月5日 ~ 2 日